



徳島県美術家協会

美術年報

2011

目 次

はじめに	徳島県美術家協会長 佐野 比呂志	1	
徳島県美術家協会規約		4	
平成21年度事業報告		5	
役員名簿(平成22年度)		8	
徳島県美術展開催運営要項		15	
第65回県展記録		19	
第65回県美術展出品・入選等状況		27	
徳島県美術展審査員一覧		28	
第18回放美展記録		32	
各部記録(平成22年度)			
・日本画部	部会長 西野 和男	38	
・洋画部	部会長 榊田 務	41	
・写真部	部会長 櫛渕 魏	50	
・彫刻部	部会長 松永 勉	56	
・美術工芸部	部会長 七條猪三郎	60	
・書道部	部会長 荒井 彭仙	65	
・デザイン部	部会長 福井 章	71	
第65回県美術展審査評		75	
会員名簿			
・日本画部	84	・美術工芸部	93
・洋画部	85	・書道部	94
・写真部	88	・デザイン部	105
・彫刻部	92		
第65回徳島県美術展(県展)公募規定			106
第65回県美術展 特別・招待・無鑑査・賛助出品者名			107

あとがき

は じ め に

徳島県の芸術の春の祭典、第18回放美展は、平成22年5月2日(日)から6日(木)までの5日間、あわぎんホール（県郷土文化会館）で開催された。出品点数1,172点、展示総数614点、入場者数3,969人、昨年より約200人増加、盛大に開催され、無事終了した。次回19回展はまたさらに飛躍することを願ってやまない。

第65回県美術展は、第1期が平成22年10月9日(土)から17日(日)まで、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、デザインの6部門、第2期が10月19日(火)から27日(水)まで書道部門で、あわぎんホール（県郷土文化会館）で開催された。作品の応募総数は、例年なみの2,341点、審査の結果、入賞入選844点が選出された。展示数は、特別出品、賛助出品までふくめて、953点となる。県展も65回を重ねて、その内容も年々充実、各部門の審査員からも誉め言葉が多く聞かれた。各部作家の方々も充分自信を持たれて、日頃の制作活動を充実していったほしい。よく思うことだが、特に多くの中央展以上に厳選である県展を愛し、臆することなく、挑戦し続けられている出品者の方々には、心から敬意を表し、感謝の思いでいっぱいである。

各部門の活動や、関係団体、協会の精進も例年に劣らず活発であった。そしてこれらは各部門でまたくわしくとりあげられることでもあり、重複をさけて、特に主だったものを記録する。

長尾弘子日本画展、この道70年のあしあとのタイトルで、3月12日(金)から16日(火)まであわぎんホールで開かれた。長尾さんは日本画家として県内を代表する作家で、県美術家協会副会長としてもその功績は多大であった。1947年第2回県展で特選を受賞した「茄子」から2008年の「彼岸」まで、52点が展示された。小松島市立立江寺の天井画を制作したことは特に有名で、徳島新聞賞、県文化賞、文部科学大臣表彰にも輝いた。3月26日(金)、彫刻家で徳島大学名誉教授の河崎良行さんが、2010年度の「よんでん芸術文化功労賞」を受けた。河崎さんは、県内外で個展を開くとともに、県美術展などで活躍、全国的な公募展でも多くの受賞歴がある。地域の芸術文化の振興に貢献をしていることが評価された。徳島女流美術展第1回展が、5月21日(金)から5月25日(火)まで、あわ

ぎんホールで開催された。県女流美術家協会は一昨年に100回展を開催するまでに発展、この100回展契機に、さらに新しい世界を目指して、徳島女流美術を結成し、第1回展を開催することになったと言う。代表は東光会会員の三好初子さん、日本画12名、美術工芸8名、洋画11名の船出である。制作にひたすら情熱を傾けて参りたいという。ご発展を祈りたい。示現会展巡回徳島展が63回を重ねて開催された。6月11日(金)から6月15日(火)まであわぎんホールで開催され、徳島の出品者以外に、東京を中心に、他県の作家の活動状況が理解され、地方の作家、観覧者にとっては、大変有難い作品展である。しかも毎年のもので、中心の黒崎志郎さん、他、関係の皆さんの御苦勞と御好意に心から感謝するばかりである。6月23日(水)から27日(日)まで、県立文学書道館・特別展示室ギャラリーで、米寿記念、新居藍州書作展が開催された。作品は、25歳から87歳までの43点、収蔵する古硯など22点が展示され、観覧者も多く、書作の美をしみじみ知ることができた。また後記することとなるが、新居藍州さんは、23年1月4日朝、87歳で亡くなられた。この米寿記念展が、生前最期の展覧会となられた。9月10日(金)から12日(日)までの3日間、アミコ・シビックセンターで第50回徳島写楽会記念写真展が開かれた。櫛渕魏さんを会長として、半世紀にわたり力作を披露し続け、県内写真界をリードし続けてきた。50回展では会員が全国各地の寺社や祭礼、漁港の風景などを撮影、熟練した技術や叙情性豊かな作品、約80点が展示された。月1回開く例回は、各人が1月間に作った作品を持ち寄って、批評を交わす勉強会も50年間欠かさず続けてきたことも多大な誇りである。そして10代20代の若者にも写真の魅力に触れてもらいたいと、さらなる飛躍を目指している。10月7日(木)から11日(月)まで阿波銀プラザで、三谷ミヤ子・南城ミツ子二人展が開かれた。徳島の風景を中心に26点の三谷さん。昨年に続いて、阿波踊りを主として南城さんが22点を展示した。作風は二人の個性をよく表現し、観覧者も満足して見ていた。特に南城さんは、昨年に続いての発表で、その熱意と努力には敬意を表したい。12月10日(金)から12日(日)まであわぎんホールで、創立30周年記念第15回尚真書展、「書美に魅せられて」が開催された。玉城乾香さんの日展初入選のよろこびも含めての記念展で、会員40名余にジュニア作品を併せて盛大に開催された。今後ますますの発展を期待する。11月25日(木)から27日(土)まで、あわぎんホールで、全国公募第38回県手工芸展が、徳島県民文化祭主催行事として盛大に開催された。愛好者の観覧も多く、

出品者の苦勞話も聞かされた。今後ますますの発展を祈る。

今年もまた訃報の言葉を記すことになった。県美術家協会の副会長で、元鴨島町教育長でもあられた、新居藍州（本名）憲生さんが、1月4日午前、呼吸不全のため自宅で死亡された。87歳でした。新居さんは、鴨島に生まれ、高校教師として書道を教える傍ら、書家今井凌雪氏に師事、徳島雪心会を設立、会長となる。県美術家協会書道部会長などを務め、86年の県書道展創設や2002年の県立文学書道館の開設に尽力した。07年から同協会副会長となられた。人間的にも誠実温厚模範的でした。心からご冥福をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、四国放送（放美展）、徳島新聞社（県美術展）並びに、県美術家協会の皆様方に、心から感謝するとともに、ますますのご発展をお祈りして、はじめの言葉といたします。

平成 23 年 3 月

徳島県美術家協会会長

佐 野 比呂志

徳島県美術家協会規約

昭和23.	9.	12	規約制定
32.	7.	14	新規約制定
33.	4.	29	規約一部改正
42.	4.	23	〃
46.	4.	29	〃
47.	5.	29	〃
49.	8.	22	〃
52.	7.	23	〃
56.	5.	5	〃
58.	6.	5	〃
61.	6.	21	〃
平成4.	6.	27	〃
6.	6.	25	〃
10.	6.	27	〃

第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島市内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫刻
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

- (イ)展覧会 (ロ)講習会 (ハ)講演会
(ニ)観光美術の振興 (ホ)その他必要な事業

第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

- 会 長 副会長（2名）
理 事（若干名） 監 事（2名）

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から5名以内推せんする。役員の任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員の選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあっては3名、

31名以上の部にあっては、さらに10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

- 部会長・委員（部会員数の3割以内）
部監事（2名）

役員は部総会で選出する。役員の任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員の選出その他重要事項の審議を行う。

ただし、部の事情により、部委員会をもって総会にかえることができるものとする。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり、1,750円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,500円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(参 考)

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内に置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館（徳島公園内の県立図書館）内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会バッヂを選定（図案は鬼塚副会長）

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事（3名～5名）によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部（日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道）のうえに商業美術（58年度からデザインに改称）が加わり7部組織となる。

平成21年度 事業報告

- (1) 総 会 ◇平成21年 6 月 6 日 (土)
◇県郷土文化会館 5 F 第 6 会議室
◇平成20年度事業報告及び決算報告
◇監査報告・承認
◇役員改選
◇平成21年度事業計画及び予算審議
◇その他
- (2) 第17回放美展 ◇平成21年 5 月 2 日 (土) ～ 5 月 6 日 (水・振休)
◇県郷土文化会館 3 F 全展示室及び 4 F 会議室 (会議室 2 ～ 4)
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道・デザインの628点
展示
◇受賞者表彰式 平成21年 5 月 6 日 (水・振休) 県郷土文化会館
- (3) 第64回県美術展
◇第 1 期 平成21年10月10日 (土) ～18日 (日)
県郷土文化会館 3 F 全展示室及び 4 F 会議室 (会議室 2 ～ 4)
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・デザインの575点展示
◇第 2 期 平成21年10月20日 (火) ～28日 (水)
県郷土文化会館 3 F 全展示室
書道の397点展示
◇第64回県展表彰式
平成21年10月18日 (日) 徳島新聞社 7 F 会議室
- (4) 県展・放美展会議
◇第64回県展運営委員会・県展事務局員会議 (21. 8. 25)
◇第65回県展運営委員会・県展事務局員会議 (22. 3. 2)
◇第17回放美展運営委員会 (21. 4. 23)
◇第18回放美展運営委員会 (21. 12. 8)
- (5) 各部会行事 ◇洋 画 部
第23回洋画部会員展 (21. 7. 2 ～ 5) 県郷土文化会館
◇写 真 部 「近江八幡市」撮影会 (21. 6. 28)
◇彫 刻 部 部会員展 (21. 8. 19～25) 阿波銀プラザ
◇デザイン部 「ピカソ de さかそ! 2009」屋外ポスター展
(21. 10. 31～11. 8) 文化の森シンボル広場

(6) 各種後援	◎丸居哲雄の世界展	(21. 4. 3～5)
	◎米寿記念 長江頌石書作展	(21. 4. 10～12)
	◎第9回大貝久義個展	(21. 4. 12～30)
	◎第17回三美書研展	(21. 4. 24～26)
	◎第10回記念ニッコールクラブ徳島支部写真展	(21. 4. 24～26)
	◎第16回大耿会書作展	(21. 5. 8～10)
	◎第3回藤本晴子油彩画展	(21. 5. 12～22)
	◎創作活動40年記念 四十宮年代展	(21. 5. 16～18)
	◎第54回成蹊書道会展	(21. 5. 22～24)
	◎徳島大学春暁書作展	(21. 5. 26～31)
	◎徳島アート21 第7回展	(21. 6. 3～7)
	◎第32回「炎」作品展	(21. 6. 5～7)
	◎第32回八紅展	(21. 6. 11～14)
	◎傘寿記念 春藤大耿書作展	(21. 6. 12～14)
	◎第30回東光会徳島支部展	(21. 6. 19～21)
	◎第8回合同絵画展	(21. 6. 26～28)
	◎第6回五果会書道展	(21. 6. 26～28)
	◎河野宗之燕フランス帰国油彩画個展	(21. 6. 30～7. 6)
	◎大西利津子作品展	(21. 7. 1～31)
	◎第27回徳島平和美術展	(21. 7. 2～5)
	◎沢・口・功・ア・ー・ト・展	(21. 7. 3～5)
	◎書道特別展「小坂奇石展 ― 館蔵の奇石コレクションとともに ―」	(21. 7. 4～8. 16)
	◎2009松林会書展	(21. 7. 10～12)
	◎第68回世代美術展	(21. 7. 16～19)
	◎第32回泉心会書作展	(21. 7. 17～20)
	◎第22回長玄書道会展	(21. 7. 18～20)
	◎吉野川市文化協会 第5回総合美術展	(21. 7. 18～20)
	◎第3回翔和会 かな書作展	(21. 7. 24～26)
	◎四国大学書道文化学科第23回教員展	(21. 7. 25～8. 1)
	◎第15回東南光書作展	(21. 8. 6～16)
	◎上野照文 阿波踊り写真展	(21. 8. 12～16)
	◎南城ミツ子画展	(21. 8. 12～16)
	◎第33回15人展	(21. 8. 26～30)
	◎第73回書芸院展	(21. 9. 3～6)
	◎南溪石書作展	(21. 9. 4～6)
	◎第65回青年美術家クラブ展	(21. 9. 11～14)
	◎第49回写楽会写真展	(21. 9. 11～13)
	◎第54回書協人展	(21. 9. 11～13)

◎第41回石井美術の会作品展	(21. 9. 17～21)
◎第13回旺美展	(21. 9. 18～24)
◎第39回直心会書展	(21. 9. 18～20)
◎第38回徳島雪心会書作展	(21. 9. 19～21)
◎岡村清写真展	(21. 10. 1～31)
◎第7回書朋六人展	(21. 10. 2～4)
◎第15回徳島障害者芸術祭 エナジー2009	(21. 10. 6～11)
◎書道特別展「生誕160年 泉智等 ― 気品あふれる書画 ―」	(21. 10. 10～11. 23)
◎第10回大貝久義個展	(21. 10. 14～11. 2)
◎第21回睦月会書展	(21. 10. 21～23)
◎第24回藍美展	(21. 10. 31～11. 3)
◎第4回写真同人「光」写真展	(21. 11. 2～6)
◎第7回徳島版画展	(21. 11. 6～10)
◎第8回一心会書展	(21. 11. 6～8)
◎第3回四国由源書展	(21. 11. 21～23)
◎吉野川市書人会 第5回作品展	(21. 11. 21～23)
◎第39回芳藍書道展	(21. 11. 21～23)
◎日本リアリズム写真集団 徳島支部第39回写真展	(21. 11. 27～30)
◎「今、伝えたい、徳島・先人の言葉たち」展	(21. 12. 1～9)
◎第14回尚真書展	(21. 12. 4～6)
◎第13回せせらぎ書展	(21. 12. 5～7)
◎第15回記念六書会書展	(21. 12. 11～13)
◎上田溪水遺作展(併催)第24回正鋒会書展	(21. 12. 11～13)
◎第30回臨池書展	(21. 12. 12～13)
◎第38回歳末チャリティー 作品・色紙即売展	(21. 12. 12～14)
◎仲間たちの写真展	(22. 1. 14～18)
◎第15回悠美展(徳島県退職教員協議会作品展)	(22. 1. 29～31)
◎第34回東玄書道会展	(22. 2. 6～8)
◎第41回ナルトびんばけクラブ写真展	(22. 2. 11～14)
◎第43回モダンアート徳島支部展	(22. 2. 11～15)
◎写真集「美しい徳島」岩崎英昭写真展	(22. 2. 17～22)
◎第35回四国大学書道文化学科卒業制作展	(22. 2. 18～24)
◎第44回書道研究 清潮書作展	(22. 3. 5～7)
◎パルの会洋画展	(22. 3. 8～12)
◎第28回青彩美術展	(22. 3. 25～28)
◎第30回記念書研社展	(22. 3. 26～28)
◎第7回五果会書展	(22. 3. 26～28)

徳島県美術展開催運営要項

第1条 （名称・開催目的）

本展は徳島県美術展「以下（県展）という」と称し、広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより県内美術愛好家の制作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより本県の芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

第2条 （主催団体）

県展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

第3条 （開催運営の組織）

県展を開催運営するため、基本事項を審査決定する「県展運営委員会」と、主として準備計画を進める「県展事務局」とを設置する。運営委員、事務局員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

【県展運営委員会】

運営委員会のメンバーは、県美術家協会の会長、副会長2名及び各部会から2名、徳島県から1名、徳島新聞社から3名の合計21名でこれを構成する。運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

1. 開催運営の基本事項について審議決定すること。
2. 審査員の推薦決定に関すること。
3. 審査方法、表彰に関すること。
4. 収支予算、決算の承認に関すること。
5. その他県展開催に必要なこと。

【県展事務局】

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社企画事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会各部会から2名、県美術家協会事務局1名、徳島新聞社2名の計17名で構成する。事務局員の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

1. 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
2. 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備に関すること。
3. 審査員候補の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇等に関すること。
4. 収支予算案の作成に関すること。
5. 開会式、表彰式の準備に関すること。
6. 広報PRに関すること。

7. その他県展開催の下準備に関すること。

第4条 (出品部門)

県展の出品部門は、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

第5条 (展示作品)

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から次の作品とする。

1. 一般公募作品の中から主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。
2. 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

- (1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。

◇次のものを無鑑査とする。

- (1) 特選を連続3回得たもの。
- (2) 年間を問わず特選を4回得たもの。
- (3) 年間を問わず特選及び準特選を6回得たもの。(特選1回準特選5回、特選2回準特選4回、特選3回準特選3回、準特選6回の場合とする)
- (4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

- (1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会長、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。
- (2) 各部の会長を永年勤めて実績があり運営委員会の議を得た方。

(注) ① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。

- ② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

第6条 (審査員)

審査員は県外審査員とする。審査員の選任は県美術家協会から一定数の人数を推薦し、この中から事務局で選任作業を行い、運営委員会の議を経て決定する。

第7条 (審査)

審査は公開により行う。

第8条 (入選、入賞数)

1. 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する場合があるが、原則として次の範囲内に止める。

区 分	特 選	特別賞（特選の中から1点）	準特選	奨励賞	入 選
日 本 画	2	徳 島 新 聞 社 長 賞	3	3 以内	規定数
洋 画	3	四 国 放 送 社 長 賞	6	5 ♪	♪
写 真	4	徳島県美術家協会会長賞	9	8 ♪	♪
彫 刻	1	徳 島 県 知 事 賞	2	2 ♪	♪
美術工芸	2	徳 島 県 議 会 議 長 賞	4	3 ♪	♪
書 道	8	徳島県教育委員会教育長賞	14	13 ♪	♪
デ ザ イン	2	徳 島 市 長 賞	3	3 ♪	♪

※特別賞は各部門の中から最優秀作品1点に対し贈られるものです。

賞はいずれも同格で毎年部門により一つずつ変更し賞を贈ります。

2. 入賞は1人1賞とする。

第9条 （表 彰）

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

1. 特 選……賞状、賞金
2. 準特選……賞状、賞金
3. 奨励賞……賞状、記念品
4. 入 選……全員に賞状

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

1. 徳島県知事賞 1 名
2. 徳島県議会議長賞 1 名
3. 徳島県教育委員会教育長賞 1 名
4. 徳島市長賞 1 名
5. 徳島新聞社長賞 1 名
6. 四国放送社長賞 1 名
7. 徳島県美術家協会会長賞 1 名

◎特別賞の選考方法については別に定めるものとする。

第10条 （収支予算）

県展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

1. 出品料
2. 入場料
3. 図録売り上げ代金及び広告料
4. 各種補助金
5. その他

県展の支出経費は事務局長の承認を経て行い、必ず証票をとり、毎年12月末に決算を行い、2月に開催する運営委員会に報告し承認を得るものとする。

第11条 （出品料・協賛費）

県展の出品料及び協賛費は次の通りとする。

1. 県美術家協会会員の出品料は、1点目3,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
2. 一般の方の出品料は、1点目4,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
3. 招待、無鑑査、特別出品者及びその他審査を受けない者の協賛費は1点3,500円とする。

第12条 （入場料）

県展の入場料は次の通りとする。

- | | | | | |
|-----------|-----|------|----|------|
| 1. 一般・大学生 | 前売り | 500円 | 当日 | 700円 |
| 2. 高校生 | 前売り | 250円 | 当日 | 300円 |

第13条 （附 則）

本要項の規定は昭和61年9月から実施する。

本要項の改訂、修正は運営委員の3分の2以上の議決を経てこれを行うものとする。

平成4年2月22日 一部改正

平成4年5月16日 一部改正

平成8年5月25日 一部改正

平成11年5月14日 一部改正

平成13年5月30日 一部改正

平成14年9月25日 一部改正

平成17年6月14日 一部改正

平成18年4月11日 一部改正

第65回県展記録

会 期 (第 1 期) 平成22年10月 9 日(土)～17日(日)

(第 2 期) 平成22年10月19日(火)～27日(水)

会 場 あわぎんホール (県郷土文化会館)

日 本 画

〔審 査 員〕 岡田 倫行

〔特別出品〕 長尾 弘子 西野 和男

〔招 待〕 中川 健 岡 英彦 土方るみ子 土井 洋子 中西 芳雄
日浦 猛史

〔賛助出品〕 長谷 壽

〔特 選〕 宮越 千佳 (徳島新聞社長賞)
泉 福美

〔準 特 選〕 前野 夏海 田中 優里 森崎 雅子

〔奨 励 賞〕 岩脇 恵子 秋月ヒサヨ 齋藤 久男

〔入 選〕 菊本 静子 三谷 浩三 伊丹 さよ 吉田 幸 中川 緑恋
清水 千尋 天羽 弘毅 三ツ本繁美 中嶋 昌子 大塚さや香
仁木 正子 西岡 ちほ 西村美也子 島山 耀子 井上 弘子
柳田 一子 五宝喜美子 石原 千鶴 平野 真里 坂 容子
富永 博子 新居麻里子 藤井 吉信 石動 智子 梶 智子

洋 画

〔審 査 員〕 金山 桂子

〔特別出品〕 佐野比呂志 榊田 務

〔招 待〕 清水 亟悞 楠瀬 等 露口 敏幸 長尾 弘久

〔賛助出品〕 岡 多美子 河田 安市 黒崎 志郎 松川 寛 中辻奈美枝

〔特 選〕 林 静代 (四国放送社長賞)
加賀谷愛美 森本 仁美

〔準 特 選〕 林 敏雄 山内 雅文 野口 義仁 菊本 静子 加川由紀子
藤本 千秋

〔奨励賞〕	伊良原貞子	吉田 玲子	戸井 李名	柏木 安代	住友 政雄
〔入選〕	尾浦 粹子	中山 清一	井沢 忠昭	日野貴美子	澤井 敏隼
	中川 禎子	西崎 志帆	野上 恵子	島村 英之	浦川 起世
	渡部 笑葉	大串 直行	松下 総子	蔭山賀代子	山口万里奈
	三谷多美子	阿部 昌子	伊勢 浩章	丸尾 佳穂	阿部 幸子
	村上 富子	富浦 道子	橋本 麻由	中内あい子	清野 優奈
	富岡 晴恵	妹尾みのり	瀧川 勝雄	鎌田まゆみ	山田 茂昭
	福田 遼子	藤川 剛緒	梅津美砂代	小笠原秋子	福本 恵
	岡本 英見	増田 政春	竹原 良亮	岸本 花子	篠原 昭子
	眞鍋たえ子	埴渕 照二	青木 成実	宮本 典代	森 幸子
	野口 暁子	川人 則子	西川 周三	出張 徳夫	山口 明美
	田中シゲミ	藍谷 浩平	中村 恵一	仁木 英子	埴渕 祐子
	藤井 香世	山村ひろ子	西川 敬子	久保 和子	島田 純江
	玉田 秀子	阿部 文代	佐藤 敬子	丸関 朋子	笹田 義宏
	小浜 敏也	富田 君子	岩井 千晴	瀬川 政子	福良 哲子
	宮田 京子	横石 和子	馬渕 博子	米沢 博	東 紀美子
	在原 敏子	藤崎 恭子	中島 洋子	南城ミツ子	青木 幸子
	鈴木 陽子	田中 康子	手塚てる子	近藤 克子	前橋 巖
	三谷ミヤ子	林 康太郎	柏木 頼子	田浦 佳江	越久 高照
	長井 秀夫	犬伏美智子	鈴木 敬子	井住香代子	前野 亮治
	川中比沙子	小笠 正明	竹内 れい	阿部佐代子	土橋 正子
	浅野さおり	細川 禮子	松浦 英子	簀手日登美	尾田 稔子
	堀江 幸子	山口 興一	尾西 敬子	黒島 貞子	増喜 昭文
	松尾 実	西條 敏夫	西條 明彦	杉本 祥子	眞野 尚枝
	坂東 弘子	川上 晴美	中川 清隆	上田 幸子	福田 晶
	藤井 博之	二條 均	大西 道夫		

写真

〔審査員〕	三好 和義				
〔特別出品〕	三好 和義	西條 征二	櫛渕 魏		
〔招待〕	井上 光雄	木田 英之	勝西 雅夫	上野 照文	森 賢一
	橋本 圭祐	前浦 芳久	荒井 賢治	林 敏彦	古井 謙吉
	井藤 光章	増田 寿	柳本 正	大和 健司	船越 正文
	堀淵 完治	岩崎 英昭	久保 英樹		

〔遺 作〕	中野 建吉						
〔特 選〕	喜多 昌弘 (徳島県美術家協会会長賞)						
	大和 章人	郡 訓子	富岡佳代子				
〔準 特 選〕	福井 純子	井原武四郎	谷中千恵子	川口 進	岡村 清		
	福原 和代	姫野 博司	川眞田慶治	今出 弘			
〔奨 励 賞〕	山田 卓	松田みゆき	多川 静守	久保 翠	西野 倫子		
	平野 史子	堀口 幸男	櫛谷 文次				
〔入 選〕	藤川 剛緒	櫛渕 紳哉	阿部 啓三	宮本 幸治	佐藤 考利		
	住友 登	三木 理司	眞鍋 一正	岡田 佳子	織野 明弘		
	泉 清美	幾田 茂仁	秋山 修一	郡 英明	四宮 清文		
	四宮 正恵	島 祥子	野藤 敏美	山田 勝二	吉田 圭作		
	中川 定典	矢部 弘子	林 好一	武田 吉子	富樫 晃		
	土橋 成行	竹内 好文	棚橋 仁志	辻 絹子	寺尾 享美		
	谷 嘉明	新居 奏	中野 久世	長浦 武尚	野口 道子		
	田村 泰弘	遠藤 寛	大津 勝治	赤尾 壽一	岸田 義市		
	三見 義雄	山川 光磨	林 広司	平澤 澄子	平澤 昭世		
	富士 弘子	福永 豊	原田 章一	橋本 雅子	橋本 勝		
	早渕 茂	板東 律雄	岩本 宏子	岸 和幸	山上 堯		
	南 秀典	坂東 糸枝	山根 茂美	正見 晃章	松村久美子		
	村上富太郎	森住 博	村山 松子	山下 修司	山本 雅敏		
	山本 宜司	林 邦光	笹尾 正夫	山田 稔	吉村 敏嗣		
	新居 修	岡久 吉徳	島 廣幸	福井 邦博	中野みどり		
	庄野 里美	池添 秀信	石本 隆二	福原 敏雄	西岡まゆみ		
	勝瀬 彪	西條 圭二	野口 佳一	手塚 昭人	日出 顕作		
	橋本 和夫	森 英弘	富加見美枝	一宮 由子	岸田 立身		
	板東よしお	埴淵 節子	埴渕 照二	古字 智子	市川 正二		
	竹内 一雅	相原 朝生	神野 太三	城田 清志	椎野 泰治		
	鳥井 敬一	佐藤 進	田中 利彦	田中眞由美	久保 祐一		
	阿部 君子	谷中美智子	米澤 正博	秋野 昌子	高島 武夫		
	吉田 隆之	上杉 大一	藤本 英子	佐藤 和恵	佐竹 治		
	大塚 尚	斎藤 幹夫	武林 恭史	氏師 敏晴	田中 義孝		
	滝畠 豊美	姫田 慎治	溝渕 清之	稲垣 喜修	池田 啓子		
	長岡 和美	木地谷勝行	富川 鉄也	鍋島治世子	小川 勝		
	辺見 博子	有馬 正司	森住 啓	原用 宏	安丸 弘二		
	梶村 明美	蔭山 英和	根ヶ山美江	大栗 隆夫	中村 茂人		
	坂田 一郎	井上 憲治					

彫 刻

〔審査員〕	建畠 朔弥						
〔特別出品〕	河崎 良行	佐藤 隆					
〔招待〕	井下 俊作	鎌田 邦宏	松永 勉	居上 真人	上月 佳代		
〔賛助出品〕	長岡 強						
〔特 選〕	木村 大志	(徳島県知事賞)					
〔準特選〕	武田亜希子	西村 大喜					
〔奨励賞〕	大貝 寿子	安藝 淳二					
〔入 選〕	二宮 治夫	高丸 公相	大貝 貞雄	小林 正則	山橋大二郎		
	井内 晃俊	宇江城正剛	米津 宏一	吉出 祐子	東谷 幸恵		
	萬 知恵子	中川 伸一	三間富久美				

美術工芸

〔審査員〕	山下 了是						
〔特別出品〕	七條猪三郎						
〔招待〕	多智花佐代子	松下 雄介	松下 慶一	森 賢一	橘 恵		
	犬伏 絢						
〔賛助出品〕	中川 存	矢野 款一					
〔特 選〕	矢野 藍游	(徳島県議会議長賞)					
	石井 春夫						
〔準特選〕	松原 敦子	田村 恵子	楠 博子	松本 宏			
〔奨励賞〕	斎藤 和彦	長尾 敏子	平尾 静子				
〔入 選〕	藤井 哲信	四十宮年代	阿部 巍	野村 裕子	吉田 陽子②		
	大貝 寿子②	南 泰樹	小川 光	南 郁代②	浅山 義明②		
	佐治 孝	宮本 薫	秦 信子	木田サチコ	森 克江		
	永峰 君代	和佐 豊子	妹尾 文子	家形笑美子	松永 卓司		
	平岡英津子	萬藤 武徳	吉野 由紀	前田 道子	相原 良平		
	新居久美子	大貝 貞雄	吉田 眞弓	定本 和恵	大西 君代②		
	丸居 哲雄	大川 雅代	板東 健三	釜内 哲子	鈴江 正子②		
	武田 純子	西内 貞二	高松 正彦	安富 順子	井上 佳郎		

吉田 敏明	加藤 和美	吉田 和子	小林 鳳美②	山本 由実
武田 潤子	大西 道夫	龍木 秀子	小栗加代子	江角 久子
板東 啓子	大坂 君子	仁田 和子	森 明治	福本美智代
青木 壽美③	江西亜由美	谷口茉奈美	近久千加代	前野 亮治
向 紫	平瀬 進也	梶原 浩二	手塚 健一	椎野真理子
清水由利子	真鍋 謙弘	下内 良一	丸井 明	梶浦 令賀
曾江 司②	矢野 藍游	清原 眞弓	小林 義治	藤中 教代
山下壽美代	今川 博臣	富永 和代	石田 節子	松本みづる
吉田 祐子	黒川 佳代	廣瀬由美子	太田 裕子	清田美和子
松下 敏之	宮田 千代			

書 道

〔審査員〕	大河内仙嶽	師田 久子	飯高 和子		
〔特別出品〕	新居 藍州	荒井 彭仙			
〔招待〕	宮井 青雨	長原 皋聖	西 南龍	成尾 莊秀	原田 霄月
	芝原 醒鶴	前川 古舟	清水 桂月	美馬幾美賀	春藤 大耿
	中谷 史子	長谷 美峰	勝瀬 景流	川上 虹泉	近藤 静苑
	日下 溪翠	岡島 順子	竹田 和代	山口 華城	藤若 美風
	武市 鳴雲	中尾 勝子	富久 鳴泉	永松 春苑	島田 小園
	坂本 霄風	浜 佳香	隅田 英二	松本 清香	多田 清芳
	玉城 乾香	薄田 玲泉	能仁 華瑤	高田 青蓮	三浦富美代
	宇山 泰鳳	亀石 文苑	岩本 志豪		
〔賛助出品〕	東 南光				
〔無鑑査〕	宮守 崇流	戸出 芳泉	林 桂翠	詫間 勝陽	東野 恵巳
〔特選〕	平岡 郁子 (徳島県教育委員会教育長賞)				
	佐々 京子	林 みゆき	佐野 陽子	米澤 司子	井上 まり
	阿部 博子	佐藤 恵子			
〔準特選〕	陶久 房枝	秦 知美	八木 澄江	後藤 佳美	浅川 陽子
	松永 浩子	北村 浩子	井上 彰夫	河野紀代子	原口 栄子
	高瀬 善郎	吉田さい子	山口 文子	中川 博雅	
〔奨励賞〕	上野 益代	岡部ひとみ	丸岡 由美	谷本 洋子	脇坂 優
	上田 久恵	遠藤 孝子	福山 啓子	春川 登	中川 富量
	村田 泰輝	田渕 勲	射場 博子		

〔入 選〕

漢 字 の 部

岸 浜子	小谷ケイ子	柳本 真弓	四宮 仁美	桑田 次雄
大野シゲ子	中川恵美子	奥田 文子	折野 茂幸	四宮 恭子
岡本美津代	三崎美佐代	久積富美子	杉本 妙子	大和 公代
鴻野千賀子	堀江 孝己	日下 真宏	仁木 輝実	矢部 知子
阿部 千明	近藤 美香	宇山 和治	西岡田さつき	安友 彰子
沖田 章代	藤村 恭子	吉村 敬子	河見 忠信	後藤 紀代
米倉由加里	栗飯原優子	大平美代子	中谷 明美	前田 麻子
宮脇 郷子	吉成啓一郎	若木 恭子	馬居美智恵	田上 洋子
片山 芳明	弘田 敏章	柏尾美恵子	新見 辰馬	山下弥栄子
稲井 知子	中西 淑子	春藤 真紀	井上 公子	日野出夏穂
河野多美子	寺田 美穂	河野 梅子	遠藤 愛子	遠藤ツルヨ
駒田 澄子	服部 弘子	佐藤美智子	白山富美絵	中村 志帆
益岡 輝実	洲崎 忠雄	近藤真千子	福永久美子	中口美都里
中川 泉	稲井 由香	四宮 千春	須藤 智子	酒井やすえ
山城美三子	原 貞子	中川 博雅	多賀 晴代	恵美 恵子
荒井 和子	高柳 由美	大本由紀子	高橋 信子	大塚 唯士
三條 宣隆	吉川 芳子	岸本 廣江	萩原 陽子	竹田千鶴子
吉岡 逸子	恵内 貞子	由宇 典代	近藤 美絵	田村 元帥
村井 香織	米田 京子	河野久美子	石井 瞳	永岡ツタエ
籙 品子	庄野 和宏	河野 永子	東條 裕子	郡 秋江
新見 明子	吉平 順子	坂本 敬子	椎野 薫	藤永 真里
中村 絢子	一宮 明美	福家 佳余	横田 典子	川村 真澄
大西 好子	満壽川愛弓	後藤 郁子	横田 典子	中村 美子
土井 和也	庄野 修一	武市めぐみ	鈴木 正友	寺内 金子
寺内 絹恵	大地まゆみ	南 知枝	園尾 淑子	谷口 統雄
丸岡 茂夫	栗田 正治	飯田 公子	上田美千代	川辺 光俊
豊浦 佳子	花本ふくみ	峯野 智鶴	井野めぐみ	木内 文子
木元 恒子	妹尾 寛子	渡部 敦子	森本真由美	野口 有香
豊原 淳子	荒川 佳子	谷本真由美	辻 尚子	有井 清
田中 育子	田中 偉嗣	小津美奈子	小林 忠志	

篆 刻 の 部

内田 道幸	吉村 敬子	蓑毛 真琴	植上富美子	小林 義治
二神 光代	川道 伸弘	前田三枝子	横田 雅夫	大野由美子
武市 彩伽	庄野あゆみ	岡 千沙季	高井ちなつ	

仮名の部

一ツ松真弓	石橋 幸恵	竹内 英子	廣瀬 久代	住友 裕子
井内 光子	皆谷 露子	背川 章子	松本由希子	森 弥生
吉田 幸子	川口 珠枝	楠瀬 恭子	野上 美紀	林 孝枝
柏原 善子	大西 順子	水口 久枝	福村喜代子	宮崎 早苗
湊 泰子	遠藤 由子	高橋加奈子	岡島 公子	中原久美子
加藤 昭子	稲江 司子	野口 和子	関 藤子	伊藤 秀子
坂本 敬子	永岡ツタエ	森崎佐和子	古谷 和代	妹尾 敏子
福島 由子	町田 哲子	山本 愛美	宮西 恵子	芳田 知子
久住 律子	河野 静江	中谷つや子	折野 佳子	杉本 裕子
井上 智世	井上小百合	寺尾 俊通	内田美代子	向井 京子
三浦 育恵	桑原 亮介	向井 境子	和泉かず子	吉田 好孝
畠山 政子	平尾 卓美	田岡佐記子	山橋不二子	崎野亜希子
高木美賀子	久積希実子	内田 麻紀	加村喜美子	藤井三樹子
菖蒲 和代	原田 葉子	小林 貴子	井口 ひろ	小川 瞳
今津 英子	日下壽美子	濱口 恵	田村富士子	賛田美恵子
山本 恵子				

近代詩文の部

楳山 正代	川下小夜子	河野 富子	川端喜美子	岸 緑
木田 史子	木内 典代	桐生 弘美	栗林 和江	栗山 弘子
桑村 清	幸田 康代	児玉 幸子	坂尾 俊一	定本 宏美
武田 淳子	玉城 若菜	富永美知子	長原 七与	仁木しもえ
野口 晴世	野田 満代	野田 洋子	萩原 礼恵	橋本 君代
藤本 優子	正見 千恵	松岡 文子	丸岡 良子	丸田 三恵
三村 光子	森浦 和子	森岡嗣雅子	森本知世子	森本 陽子
森本 佳子	矢野 照代	山本 陽子	和田 悦代	和田富美子
若林 節子	渡邊 亜希	朝三 和子	芦谷 后子	生野 久美
岩崎 麻美	上田由美子	遠藤破都恵	遠藤 禎子	大井多鶴子
大石 正	大津 明美	大西 英子	大西千鶴子	小野 幸久
岡崎 啓子	片山 保			

前衛の部

梶川 佳奈	大胡恵里香	里見 真美	阿部 公恵	長崎 香
大前 紀子	大胡 真美	麻植塚由佳	井内 梨加	名護 瑞季
久保 友紀	安丸 昌輝	荒川友加里	細井 智加	西岡 珠子
永井 厚子	島尾 明良	義富 博正	佐藤由紀代	中川 貴俊
中川 洋子	安村 早織			

デザイン

〔審査員〕 勝井 三雄

〔特別出品〕 坂本三千一 福井 章

〔招待〕 斎藤 繁次 坂野美恵子 敷島のり子

〔特選〕 政平菜々世（徳島市長賞）
中尾 茉由

〔準特選〕 新宅 生子 四十宮隆志 矢野 愛恵

〔奨励賞〕 藤本 愛美 斎藤志津子 東 早紀

〔入選〕	林 敏雄	堀貫 裕子	梅津 洋子	清原 綾乃	松原小百合
	佐山 梨奈	濱口 春香	野中 弘美	小林 あい	四十宮隆志
	篠崎 未来②	林 千尋	沢口 功	加藤 瞭	岡田弘太郎
	吉村 敏嗣	河野真理子	近清さよこ	西條 明彦	福田 晶
	斎藤 剛②	森本 菜月	佐々木奏美	角田 萌	

第65回県美術展出品・入選等状況

部門 区分		日本画	洋 画	写 真	彫 刻	美術工芸	書 道	デザイン	計
出 品 数		55	323	864	30	194	821	54	2,341
人 数		51	227	294	26	137	518	41	1,249
入 賞 ・ 入 選	率	60.0%	42.4%	18.9%	60.0%	54.6%	43.0%	63.0%	36.1%
	特別賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特 選	2	3	4	1	2	8	2	22
	準特選	3	6	9	2	4	14	3	41
	奨励賞	3	5	8	2	3	13	3	37
	入 選	25	123	142	13	97	318	26	744
	計	33	137	163	18	106	353	34	844
落 選	率	40.0%	57.6%	81.1%	40.0%	45.4%	57.0%	37.0%	63.9%
	落 選	22	186	701	12	88	468	20	1,497
特 別 等	特別出品	2	2	3	2	1	2	2	14
	招 待	6	4	18	5	6	38	3	80
	無鑑査	0	0	0	0	0	5	0	5
	賛助出品	1	5	0	1	2	1	0	10
	計	9	11	21	8	9	46	5	109
展 示 数		42	148	184	26	115	399	39	953

◎特別賞は特選の内数である。

徳 島 県 美 術

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
1	委 員	〔野 間 仁 根 家 永 騏三郎	委 員	
2	大 栗 旌 仟	野 間 仁 根	上 田 備 山	〔太 田 三 郎 坂 東 文 夫 鹿 東 内 芳 洲
3	委 員	伊 原 宇三郎	同 上	
4	委 員	須 田 国太郎	同 上	同 上
5	上 村 松 篁	田 村 孝之介	小 野 由 行	〔太 田 三 郎 坂 東 文 夫
6	西 山 英 雄	伊 藤 継 郎	川 崎 亀太郎	同 上
7	山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤太郎
8	池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	〔太 田 三 郎 坂 東 文 夫
9	水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10	管 楯 彦	〔鈴 木 信太郎 野 間 仁 根	同 上	同 上
11	奥 村 厚 一	井 上 長三郎	岩 宮 武 二	同 上
12	浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13	小 松 均	藤 井 令太郎	同 上	〔辻 東 堂 坂 生 文 夫 針 一
14	秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	
15	奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	管 沼 五 郎
16	同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17	松 尾 冬 青	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18	矢 野 鉄 山	池 島 勘治郎	同 上	安 田 周 三
19	中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初太郎	安 堀 内 正 和
20	曲 子 光 雄	桂 ユキ子	岩 宮 武 二	植 木 茂 良
21	沢 野 文 臣	伊 谷 賢 藏	同 上	佐 藤 忠 良
22	堂 本 阿岐羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂
23	松 岡 政 信	山 下 大五郎	同 上	井 上 武 吉
24	山 崎 忠 明	大 沢 昌 助	棚 橋 紫 水	菊 池 一 雄
25	奥 村 厚 一	齐 藤 真 成	同 上	原 武 典 郎
26	梶 喜 一	島 村 三 七	同 上	掛 井 五 郎
27	上 原 卓	高 田 誠	伊 藤 知 己	松 村 外 次郎
28	黒 光 茂 樹	中 間 冊 夫	岩 宮 武 二	小 畠 広 志
29	松 岡 政 信	島 田 章 三	同 上	保 田 春 彦

展 審 査 員 一 覧

美 術 工 芸	書	道	デ ザ イ ン
鬼 塚 信 之	委 員		
同 上	田 中 白 村		
同 上	炭 山 南 木		
同 上	炭山南木・織田子青		
同 上	手 島 右 卿		
〔鬼 塚 信 之 新 田 藤 太 郎〕	同 上		
鬼 塚 信 之	小 坂 奇 石		
明 石 朴 景	辻 本 史 邑		
会 田 裕 宣	織田子青（漢）・出口草露（仮）		
鴨 政 雄	松 井 恕 流		
近 藤 悠 三	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰		
平 松 宏 春	同 上		
同 上	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠		
大 西 忠 夫	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰		
明 石 朴 景	同 上		
平 松 宏 明	同 上		
大 西 忠 夫	同 上		
鴨 政 雄	同 上		
平 松 宏 春	同 上		
内 田 邦 夫	同 上		
山 脇 洋 二	同 上		
槻 尾 宗 一	同 上		
山 脇 洋 二	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰		
藤 本 能 道	同 上		
三 井 安 蘇 夫	同 上		金 野 弘
六 角 穎 雄	同 上		大 智 浩
鈴 木 貫 爾	同 上		早 川 良 雄
田 村 耕 一	同 上		原 弘

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 刻 (46回まで彫塑)
30	黒 光 茂 樹	田 中 岑	岩 宮 武 二	篠 崎 明 雄
31	河 合 健 二	田 中 忠 雄	同 上	江 口 週
32	長谷川 青 澄	山 口 長 男	〔岩 宮 武 二 伊 藤 知 己〕	一 色 邦 彦
33	松 岡 政 信	吉 井 忠	〔岩 宮 武 二 秋 山 庄 太 郎〕	柳 原 義 達
34	山 岸 純	小 西 保 文	岩 宮 武 二	清 水 九 兵 衛
35	樋 笠 数 慶	荻 太 郎	同 上	桜 井 祐 一
36	坂 口 麻 沙 子	吉 井 淳 二	同 上	土 谷 武 道
37	下 田 義 寛	野 見 山 曉	同 上	山 本 正 九 兵 衛
38	同 上	須 田 真 一	高 田 誠 三	清 水 田 孝 郎
39	同 上	齊 藤 真 一	同 上	城 田 良 治
40	下 保 昭	津 高 和 一	〔岩 宮 武 二 高 田 誠 一〕	清 水 井 敏 夫
41	橋 田 二 朗	小 松 崎 邦 雄	奈 良 原 武 二	淀 木 津 本 省 猛
42	松 本 哲 男	国 領 山 光 人	岩 宮 木 田 誠 三	橋 山 土 谷 武 郎
43	山 岸 敏 夫 人	利 根 山 宏 寛	三 高 三 淳	山 崎 田 敏 弘
44	平 福 井 爽 重 夫 稗	赤 桜 大 森 朔 重 映 陽 右 嗣 寛 人 香 博 豊 敏 貞 穂 彦 二 彦 子 寛 一 郎 子	同 上	土 峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
45	福 岩 穂 田 淵 路 融 義 甲 功 一 哉 ぐり 男 夫 紀 一 司 明 明 彦 英 行	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
46	岩 穂 田 淵 路 融 義 甲 功 一 哉 ぐり 男 夫 紀 一 司 明 明 彦 英 行	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
47	穂 田 淵 路 融 義 甲 功 一 哉 ぐり 男 夫 紀 一 司 明 明 彦 英 行	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
48	田 淵 路 融 義 甲 功 一 哉 ぐり 男 夫 紀 一 司 明 明 彦 英 行	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
49	中 下 工 那 波 多 目 勝 あ ぐり 男 夫 紀 一 司 明 明 彦 英 行	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
50	下 工 那 波 多 目 勝 あ ぐり 男 夫 紀 一 司 明 明 彦 英 行	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
51	工 那 波 多 目 勝 あ ぐり 男 夫 紀 一 司 明 明 彦 英 行	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
52	那 波 多 目 勝 あ ぐり 男 夫 紀 一 司 明 明 彦 英 行	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
53	那 須 田 敏 隆 和 浩 悠 正 和 利 俊 倫	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
54	内 尾 崎 本 矢 内 嶋 廻 島 丹 亀 田 村	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
55	松 山 岩 大 竹 小 宮 能 雲 西 岡	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
56	山 岩 大 竹 小 宮 能 雲 西 岡	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
57	岩 大 竹 小 宮 能 雲 西 岡	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
58	大 竹 小 宮 能 雲 西 岡	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
59	竹 小 宮 能 雲 西 岡	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
60	小 宮 能 雲 西 岡	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
61	宮 能 雲 西 岡	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
62	能 雲 西 岡	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
63	雲 西 岡	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
64	西 岡	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建
65	岡	大 谷 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本 田 井 師 山	立 杵 同 上	峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴 中 林 津 建

美術工芸				書	道	デザイン (37回まで商業美術)			
山脇洋二	浅野陽	前田泰次		荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴・田中栢翠 富永眉峰 上		田中一光	奥野英雄	灘本唯人	
山脇洋二	中村光哉	山中脇洋二	田村耕一	同 上	荒井天鶴・久保幽香・讃岐泰泉・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰・新居藍州	大高猛	福田繁雄	永井正一	山城隆一
同 上	山下恒雄	同 上		荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰 西岡楚峰 上		栗津潔	田中一光	長友啓典	亀倉雄策
浅野陽	中村光哉	浅野陽		荒井天鶴・久保幽香・讃岐泰泉・春藤大耿 高原清泉・田中双鶴・田中栢翠・長江清幽 新居藍州・西岡楚峰		伊藤憲治	サイトウ・マコト	佐藤晃一	河北秀也
山下恒雄	三浦小平二	松永勲		明石春浦・坪井正庵		松永真己	浅葉克己	勝井三雄	五十嵐威暢
山下恒雄	島田文雄	大西長利		大岡皓崖・山田伍雲・西野象山		青葉益輝	松永真丸	安西水丸	U. G. サト一
島田文雄	中井貞次	栗木達介		花田峰堂・小山素洞・東地滄厓		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
栗木達介	宮田亮平	松永勲		浅見綿龍・森本妙子・加藤大碩		杉浦康平	秋山孝享	遠藤誠平	中村良一
竹内順一	栗木達介	中井貞次		近藤摂南・東山一郎・中野北溟		小永井島	新島実健	三木桂三	松井秀三
島田文雄	増村紀一郎	石川充宏		谷村憲齋・植村和堂・太田義久		勝井三雄	五十嵐威暢	青葉益輝	松永真丸
竹内順一	宮田亮平	島田文雄		安原皐雲・池田桂鳳・金子卓義		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
宮田亮平	島田文雄	増村紀一郎		鈴木桐華・西本支星・金子聰松		中村良一	小永井島	新島実健	三木桂三
石川充宏	竹内順一	山下了是		尾崎邑鵬・井茂圭洞・大井錦亭		松永真丸	安西水丸	U. G. サト一	早川良雄
山下了是				栗原蘆水・榎倉香邨・種谷扇舟		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				甫田鴉川・小山やす子・石飛博光		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				杭迫柏樹・藤木正次・吉田成堂		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				津金孝邦・池田桂鳳・松永暘石		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				田中節山・村上俄山・黒田玄夏		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				宮崎葵充・赤江華城・金子卓義		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				星 弘道・宮重小蘭・西野象山		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				吉川蕉仙・清水透石・作田英嗣		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				岩井韻亭・光宗道子・大井錦亭		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				伊藤天游・井茂圭洞・田岡正堂		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				稲垣菰圃・横山煌平・船本芳雲		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				樽本樹邨・東山一郎・辻元大雲		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				真神巍堂・前島泉洲・長谷川牧風		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				鈴木春朝・山本高邨・砂本杏花		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享
				大河内仙嶽・師田久子・飯高和子		早川良雄	戸田正寿	杉浦康平	秋山孝享

第18回 放美展記録

会 期 平成22年 5 月 2 日(日)～ 6 日(木)
会 場 あわぎんホール (県郷土文化会館)

日 本 画

〔審査員〕	岡 英彦	橋本 正弘	日浦 猛史		
〔運営委員〕	長谷 壽				
〔美協理事〕	中川 健				
〔放 美 賞〕	秋月ヒサヨ				
〔優 秀 賞〕	岩脇 恵子				
〔入 選〕	島山 耀子	土井 寿美	齋藤 久男	植田 忠生	山岡 沙織
	富永 博子	水田 貴子	片山ヤス子	森本 秀代	國尾由美子
	新居麻里子	葛西 夏子	天羽 弘毅	達見かおる	西岡 ちほ
	大黒 規子	西村 早織	藤井 美沙	中川 緑恋	西條由希子
	前野 夏海	伊丹 さよ	清水 千尋	吉田 幸	長尾美貴子

洋 画

〔審査員〕	西川 周三	露口 敏幸	松川 寛		
〔運営委員〕	梶田 務	玉田 秀子			
〔美協会長〕	佐野比呂志				
〔美協理事〕	黒崎 志郎				
〔無 鑑 査〕	田中シゲミ	大西 文代	岸本 花子	田中 康子	
〔放 美 賞〕	杉本 祥子				
〔優 秀 賞〕	林 敏雄	和田 寿子	小泉たか子	北村 照子	瀧川 勝雄
	鈴木 敬子	戸井 李名			
〔入 選〕	小笠原秋子	堀江 幸子	尾西 敬子	松浦 英子	岩井 千晴
	河野 博匡	阿部 末美	萩原 典子	武田 洋子	藍谷 浩平
	市原 幸子	みたおさむ	竹原 良亮	為実美恵子	蔭山賀代子
	竹内 れい	前川 富子	土橋 正子	森本 仁美	吉田 玲子
	富岡 晴恵	黒島 貞子	篠原 稔	米沢 博	二階千鶴子
	阿部 昌子	阿部 幸子	佐々木公子	前川フキ子	ヴァック・ミンクトン
	横井嘉世恵	青木 成実	山口 明美	埴渕 照二	野上 恵子
	日野貴美子	近藤 真澄	林 茂子	眞鍋たえ子	西川 照美
	山田 智千	若林 咲希	村川 栄一	丸関 朋子	林 静代
	渡辺 信子	中川 彩	若山 一恵	白草 由子	坂東 弘子
	小笠 正明	玉井 公子	大西 道夫	福田 遼子	森本 操
	高橋 都子	大南 良花	近藤 克子	藤本 千秋	中本真由美

大久保佐智子	宮本 芳美	天満 洋子	横手 雅子	河野 多恵
丸尾 佳穂	渡部 笑菜	島田 純江	増田 優子	新居 俊浩
井沢 忠昭				

写 真

〔審査員〕	櫛渕 魏	上野 照文	荒井 賢治		
〔運営委員〕	橋本 圭祐				
〔美協顧問〕	西條 征二				
〔美協理事〕	井藤 光章				
〔無鑑査〕	川眞田慶治	久保 英樹	大和 健司	西野 倫子	石川 徹雄
	森住 博	梅本 貞範	森内 昭男	佐治 孝	平野 史子
	根ヶ山 治	栗田ふさえ			
〔放美賞〕	平澤 昭世				
〔優秀賞〕	早渕 茂	賀川 泰広	谷 ひづる	村上 寛治	渡邊 信二
	榎本 悟	野口 道子	辻 義徳	福居 幹夫	中村真智子
	板東 律雄	平澤 澄子	松崎 真弓	宮本 幸治	四宮 正恵
	島 廣幸	渡辺 幸	水口登志夫	福井 純子	
〔入選〕	伊勢 勝彦(2)	安丸 弘二	松浦 昭代	斎藤 幹夫	佐藤 和夫
	中野みどり	阿部 隆雄(2)	原 和夫(2)	三原 弘枝	渡辺 美鈴
	谷口 君子	吉田 好子	高橋 一恵	佐藤 和恵	岩本 宏子(3)
	妹尾 隆浩	山田 卓	岸田 義市(3)	森住 孝義	佐藤 義雄
	山上 堯(2)	岸 和幸(2)	藤本 英子(2)	大津 勝治(2)	谷 賢太郎(2)
	山下 善廣	稲井 芳男	森 芳雄	手塚 昭人	林 暁子
	香西 藍	滝島 豊美	西岡まゆみ(2)	富樫 晃(3)	吉田 隆之
	圓藤由貴子	熊谷美智子	梶本 義人	堤 登勢子(2)	中野 久世
	幾田 茂仁	竹内 好文	立石 達也	池添 秀信(2)	堤 信寿
	田中 利彦	谷 嘉明(2)	上杉 大一(2)	谷中千恵子	志摩 育美
	棚橋 仁志	福多 俊朗	山本 雅敏	河田 清	多田 真也
	西條 圭二(2)	池田 啓子(2)	笠井 孝純	福原 敏雄	谷 ひづる
	氏師 敏晴	一宮 康人	辻 絹子	前田 恭志	新居 奏
	松原 玲子(2)	宮前 稔(3)	郡 訓子	郡 利明(3)	篠原 治雄
	多田 進	川西 明雄(2)	郡 英明	野口 道子	松浦 孝
	久保 翠	富岡佳代子	森崎 敦子(2)	廣野美知子	西岡 祥一(2)
	米塚 稔	山本 宜司	島 祥子	後藤田清子	土橋 成行
	松村久美子	林 広司	村上富太郎	福永 豊	高木 信昭
	橋本 勝(2)	増谷 好子(2)	寺尾 享美	四宮 清文	原田 章一
	武田 吉子	藤田 貞義	長浦 武尚	中村真智子	前田 輝子
	秋山 修一	小川 宏量	宮本 幸治	四宮 正恵	島 廣幸

島	昌史(2)	大西	啓子(3)	大西	忠	福井	純子(2)	林	好一
山下	助信	長田	貞男	加藤	千明				

彫 刻

〔審査員〕	鎌田 邦宏	居上 真人	上月 佳代				
〔運営委員〕	松永 勉	濱口 恵					
〔美協理事〕	井下 俊作						
〔無鑑査〕	二宮 治夫	武田亜希子					
〔放美賞〕	齊藤 綾子						
〔優秀賞〕	Hisako,Ogai						
〔入選〕	Hisako,Ogai	平岡真理歩	大貝 貞雄	上野 理子	相原 良平		
	中川 信夫	坂本 恵理	米津 宏一	東谷 幸恵	阿部 弘華		
	盛 信太郎	辻 悠花					

美術工芸

〔審査員〕	山上 馨	松下 雄介	森 賢一			
〔運営委員〕	橘 恵					
〔無鑑査〕	加藤 伴江					
〔放美賞〕	吉田 陽子					
〔優秀賞〕	大貝 寿子	南 郁代	家形笑美子	下内 良一	宇都宮二美	
	矢野 藍游	近藤佐起江				
〔入選〕	大貝 貞雄(2)	大貝 寿子	四宮 千代	佐治 孝	阿部 和剛	
	浅山 義明	南 郁代	前田 道子	吉田 陽子	大坂ミッコ	
	和佐 勝代	丸井 明希	竹治 敦子	櫻間 修子	秦 信子	
	筒井 節子	坂野 敏子	西 美稚子	森 光	宮本 薫	
	岡崎いずみ	楠 正陶	田村 佳代	清原 真弓	阿部 巍	
	前田 一美	久米 和子	横井嘉世恵	平瀬 進也	小林 貴代	
	手塚 健一	板東 健三	和佐 豊子	保坂 美保(2)	曾江 司	
	今川 博臣	戸島 裕明	井内 晃俊	美馬 潤子	生原 靖大	
	板東 啓子	武田 純子	眞鍋 譚弘	小河原輝栄	廣瀬由美子	
	鈴江 正子	林 トミ子	木田サチコ	阪井 和代	松永 卓司	
	平尾 静子	森 克江	青木 壽美	中西 達也	前野 亮治	
	藤本 純子	玉木 隆子	鈴江 美佐	大木 真澄	古谷 清美	
	向 紫	高瀬 裕司	南 泰樹(2)	新見 道代	矢野 藍游	
	阿部まきみ	木村 秋夫	小林 義治	松本みづる	山下壽美代	

山村 啓子	森友ツヤ子	鳥井 明子	田岡久美子	柴 純代
里見 正威	山本 由実	小川 光	大西 道夫	大内 敏男
近藤 川津	吉野 由紀	瀬山 佳枝	西内 貞二	武田 潤子(2)
永山昭一郎	森本 俊彦	萬藤 武徳	佐藤アヤ子	工房『寛・美』
後藤真奈実	福富 綾華	森下 由加	近藤佐起江	石井 春夫
巽 安子	宮本 真弓	村川 栄一	石田 艶予	相原 良平

書 道

〔審査員〕	竹田 和代	武市 鳴雲	長原 皋聖		
〔運営委員〕	荒井 彭仙	日下 溪翠	宮守 崇流		
〔美協理事〕	春藤 大耿	隅田 英二			
〔放美賞〕	森本真由美				
〔優秀賞〕	長原 皋月	鴻野千賀子	市原 瑞葉	清水 宏子	阿部 博子
	三浦 育恵	糴 真理子	中野絵理加		
〔入 選〕	朝三 皋如	大井 皋霄	野口 皋玖	森浦 皋芭	森本 皋惇
	芦谷 后子	栗林 和江	桐生 美風	森岡嗣雅子	橋本 君代
	洲崎 忠峰	森田 芳見	平井真智子	岸 虹園	大和 公代
	関 幸峰	上野 益泉	西改 俊子	三原 京子	村部 幸子
	永田 竹仙	須藤 華生	春川 青超	柳本 真苑	酒井 萌艸
	大塚 秀峰	藤永 真里	川内 成美	加藤 好堂	先山 晴虹
	木内 暎光	木元 恒子	石田 理夏	岡本 朱美	井内 久子
	妹尾 寛子	佐藤 弘子	小笠 英文	渡部 敦子	阿部 鳴石
	森山 姜子	井野 恵	藤原 和代	後藤田美智恵	西岡 珠香
	杉本 裕子	住友 春子	折野 佳子	井上小百合	古谷 和代
	寺尾 俊通	岡本 美佳	桑原 亮介	富山 康江	三津田里奈
	伊原 伶菜	富山友里奈	岩佐 美沙	海部 友希	石川 翔子
	河野 真依	柏尾 美峰	乾 桂泉	森本 恵泉	三好 恵子
	大島亜里砂	原田 実穂	清水 美里	日下 旭	船橋 永
	平田 紀芳	高島 佑佳	町田 奈那	四宮 仁美	野上 真
	小西 結貴	北野 杏奈	稲垣 岬	細谷 朋未	高藤 柚
	漆原 晴香	西村 美保	野口 有香	荒川 佳子	岸 千代
	富永 裕子	塩田 龍澄	豊原 淳子	片山 保	岡 さゆり
	弘円 彩	高井ちなつ	武市 彩伽	大野由美子	田中 真弥
	片山 由梨	浅井 胡桃	板東 亜美	濱 みなみ	畑山菜津美
	中野 李更	吉本 佳奈	竹林 奈美		

デザイン

〔審査員〕 坂野美恵子 沢口 功 北島 豊嗣
 〔運営委員〕 田中 一郎
 〔美協理事〕 坂本三千一
 〔放美賞〕 麻植久視子
 〔優秀賞〕 籠家 弘高 小林 あい 鈴木 智子 佐伯 奏美
 〔入 選〕 林 敏雄 藤本 愛美 野中 弘美 堀貫 裕子 東 早紀
 杉友 良平 明石 侑希 三木由佳里 小林 あい 一宮 美穂
 森本 菜月⁽²⁾ 森本 大希 佐伯 奏美 福家 真央 河野 健
 森本 悠里 漆川 万実 村田 敦子 安田 委世 篠崎 未来⁽²⁾
 笠置 明星 澤井 真吾 油谷 和樹 矢野 愛恵 東條 加奈
 近藤 真由 貴志 春佳 富本 千裕 松原小百合 新宅 生子
 政平菜々世 佐山 梨奈 八坂 千波 渡辺 眞子 吉村 敏嗣
 清水 彩歌

第18回放美展出品・入選等状況

区分		部門	日本画	洋 画	写 真	彫 刻	美術工芸	書 道	デザイン	計
出 品 数			36	179	475	18	168	205	91	1,172
人 数			36	138	191	16	121	184	84	770
入 選	率		75.0%	44.1%	35.4%	77.8%	66.7%	54.6%	47.3%	47.4%
	放美賞		1	1	1	1	1	1	1	7
	優秀賞		1	7	19	1	7	8	4	47
	入 選		25	71	148	12	104	103	38	501
	計		27	79	168	14	112	112	43	555
選 外	率		25.0%	55.9%	64.6%	22.2%	33.3%	45.4%	52.7%	52.6%
	落 選		9	100	307	4	56	93	48	617
無 審 査	審査員		3	3	3	3	3	3	3	21
	運営委員		1	2	1	2	1	3	1	11
	美協役員		1	2	2	1	0	2	1	9
	無鑑査		0	4	11	2	1	0	0	18
	計		5	11	17	8	5	8	5	59
展 示 数			32	90	185	22	117	120	48	614

各部記録

日 本 画 部

部 会 長 西 野 和 男

年間展望

◎第18回放美展（5月2日(日)～6日(木) あわぎんホール）

応募点数は36点、うち入選27点。その中から放美賞1点、優秀賞1点を選んだ。全般的にモチーフが多彩で色感がよく、意欲的に取り組んでいる作品が多かった。高校生の若さあふれた作品も多く見られ、新しい息吹を感じた。

放美賞	「坂」	秋月ヒサヨ
優秀賞	「唐がらし」	岩脇 恵子

◎第65回県美術展（10月9日(土)～17日(日) あわぎんホール）

今回の日本画部の応募点数は55点で、昨年より1点減少した。全体的に大作が多く質的にも向上しているように感じた。

審査員は、日展評議員の岡村倫行先生にお願いし、慎重に進められた。

審査の結果としての総評は次のとおりである。

全体的にレベルが高い作品が並んだ。何をどう表現したいかが伝わり、安定感がある作品を中心に選んだ。

徳島新聞社長賞の宮越千佳「響」は、生き物と命のテーマを描き、生命感をうまく表現した。

ばらけた大輪の花びらや、球体に描かれた線の動きが、鳥とうまく響き合っている。上部のしま模様も生き生きとしてリズム感がよい。鳥の胸の部分を花で隠したことにより、鼓動が強調される効果が生まれた。また下半分の抑えた色調が、上半分の生命観をより際立たせた。さまざまな形の構成も素晴らしかった。

特選の泉福美「流し台」は、日々の生活の部分をモチーフに選んだ視点がよかった。何でもない場所を、画面の構成や色の厚みを生かしてうまく表現した。古ぼけた流し台も、かつては新しく美しく輝いていたに違いない。それが何十年という歳月の中で、暮らしと同化した。絵の中に人の歩んできた道や年月の重みを感じられ、感動を呼ぶ。

特選以外でも、犬への感情がストレートに表れた作品が目をつけた。ふわっとした毛並みや柔らかそうな体の質感をしなやかに描いていた。

最近は、写真をもとに絵を描く人もいるが、私はできるだけ写生をしてほしいと願う。写生のときに抱いた感覚は、とても大事だ。風景を一本の線で引いただけで、テーマやモチーフが決まることもある。

五感を最大限に生かして、それを表現化する努力を惜しまないでほしい。すごく難しいことだが、画家が制作過程で悩み苦しめばその分だけ、絵を見る人を元気づけることができる。そう信じて表現し続けてほしい。

特 選	(徳島新聞社長賞)「響」	宮越 千佳
特 選	「流し台」	泉 福美
準特選	「ごろごろ」	前野 夏海
〃	「夜は冷夏、虚ろ旅」	田中 優里
〃	「雨あがり」	森崎 雅子
奨励賞	「お曲突」	岩脇 恵子
〃	「道」	秋月ヒサヨ
〃	「食客」	齋藤 久男

会員消息

(県展関係は除く。月別)

- | | | |
|-----|---|--|
| 1 月 | Heart Art in Tokyo 2010 第13回エイズチャリティー美術展「春の日」M20号
文部科学大臣賞 (東京国立新美術館) | 長尾弘子 |
| 2 月 | 日本の美・回回展 (ギャラリーおいけ (京都))
第45回記念日本墨彩画院展 (高松市美術館) | 長尾弘子
長谷壽・天羽弘毅 |
| 3 月 | 長尾弘子日本画展 ― この道七十年のあしあと ― (あわぎんホール)
第45回日春展 (東京松屋銀座) | 長尾弘子
橋本正弘・岡英彦・土方るみ子 |
| 4 月 | 第50回日本南画院展 (東京国立新美術館、京都市立美術館、大阪市立美術館) | 長谷壽・藤井瑞雲 |
| 5 月 | 第49回阿南市美術展 (阿南市文化会館)
第13回朱泥会展 (アミコ・シビックセンター)
第1回徳島女流美術展 (あわぎんホール) | 長谷壽・天羽弘毅
長尾弘子他会員29名出品47点展示
秋元よし子・岩瀬洋子・坂容子
斉藤久代・土井洋子・土方喜美子
柳田一子 |
| 6 月 | 第42回珀雲社日本画展 (阿波銀プラザ) | 長谷壽・藤井瑞雲・吉田満子 |
| 8 月 | 2010京都日本画家協会選抜展 | 土方るみ子 |
| 9 月 | 第42回石井美術の会作品展 (あわぎんホール) | 中川健 |

平成22年美波町由岐地区文化祭展（由岐ポッポマリン）

長谷壽

10月 日・ハンガリー芸術交流祭 Heart Art in BUDAPEST（ブタベスト歴史博物館）

長尾弘子

第2回サンライフ北島「やさしい日本画」受講生作品展

（ギャラリーカフェ世界一小さな美術館） 中川健

第68回有秋会日本画展（大阪市立美術館） 長谷壽・藤井瑞雲

第42回日展（東京国立新美術館） 橋本正弘・岡英彦・土方るみ子

11月 第39回阿南市文化祭美術展（阿南市文化会館） 長谷壽・天羽弘毅

平成22年阿南市福井町文化祭作品展（福井町総合センター）

長谷壽

平成22年度名士チャリティー色紙展（高知市健康福祉センター）

長谷壽

2010読売新聞大阪本社名士名流作品展（近鉄百貨店阿倍野店）

土方るみ子

12月 JAPORHYTHM ～日唄芸術交響曲～展（ゲネラリーファウンデーション）

長尾弘子

第39回歳末チャリティー作品即売展（徳島そごう）

長尾弘子・岡英彦・土方るみ子

洋 画 部

部 会 長 榊 田 務

年間展望

◎第65回県美術展 (10月9日(土)～10月17日(日) 会場・あわぎんホール)

応募作品の総数は323点で、前回より34点の減、出品者数も227人で25人の減だった。入選点数は137点、入選率42.4パーセント（昨年36.2パーセント）とわずかながら緩和されたものの相変わらずの厳選である。入賞作品数は、特選3点（内1点は、四国放送社長賞）、準特選6点、奨励賞5点の計14点である。

審査員には、日展評議員、光風会理事の金山桂子先生をお迎えした。午前9時30分から午後3時過ぎまで丁寧に審査に当たっていただいた。

審査評の一部を紹介する。

「全体的に一定以上のレベルで力が拮抗した作品が多く、まじめに熱心に絵に向かっていることが感じられた。抽象作品や静物、風景などバラエティーに富んでいた。審査においては、一人ひとりの個性に注目し、その人らしい色使いや構図が出せているか、独自のものを表現しようとしているかを重視した。

四国放送社長賞の林静代「時空への誘いⅠ」は具象のモチーフを借りて、内面的なイメージを表現した幻想的な作品で、確かな画力と色使いがさえている。背景の青は、元来冷たい色だが温かみを感じさせる。中央の大輪の花に向かって小さな人影がいくつも舞う姿に「飛びたい」という願望を込めたのだろうか。茎のように伸びた赤いらせん階段が効果的。夢のある作品に仕上がっている。

特選の森本仁美「夏の日（青い自転車）」は、何気ない風景ながら、風を感じる魅力的な作品に仕上がっている。遠近を巧みに描いた構図が素晴らしい。子どもが自転車に乗る姿を温かく表現した。緑色を美しく使うことで、土と草の色の調和がとれ、絵に柔らかさが出ている。

特選の加賀谷愛美「時空・過去より」は、カラフルな球体を立体的に描いた抽象作品。球体を画面上半分に集め、絵の重心を上部にすることで、球が浮かんでいるかのような空間の広がり表現し、作品を際立たせている。立体と平面を織り交ぜた構図は、宇宙を想起させる。

丁寧で熱のこもった作品の数々から、年に一度の展覧会を励みにしていることが伝わってきた。何を描きたいかを大切にデッサン、描写力、表現力などをつけて、どうすれば魅力的に仕上がるか、考えていくとより良い作品になるだろう。」

今回も、作品の大きさを上限60号と定めたことで入選点数を135点前後とした。(実数137点) その結果、わずかながら入選者数が増加し、好感をもって迎えられているようである。公開審査に集まった人たちのマナーもよく、スムーズに審査をすすめることが出来たとの審査員の感想であった。

これからも関係者の意見をよく聞き参考にしながら、審査員の選任や搬入、審査の流れ、入落作品の確認と保管、展示などを更に検討して第66回展に臨みたい。

◎第18回放美展（5月2日(日)～5月6日(木) 会場・あわぎんホール）

洋画部門の応募者は138人、点数は179点で、前回に比して13点の増。入選は79点で入選率44パーセントという厳選となった。壁面の都合で展示されなかった作品も遜色のない好作品で不運としか言いようがない。更に精進されて応募されるようお願いしたい。

受賞作品の審査評の一部を紹介する。

「放美賞の杉本祥子さん「プライバシー」はユニークな発想で、ユーモラスに表現している。配色もよくできていて気持ちよい。

優秀賞の林敏雄さん「遠い記憶」、北村照子さん「鷹匠町から」は描写力に優れ、マチエールが美しい。小泉たか子さん「まつり」、戸井李名さん「欲」は大胆な構成で動きが感じられる。和田寿子さん「えらいやっちゃ」、鈴木敬子さん「卯月の堰風景」は、画面をうまくまとめた。瀧川勝雄さんの「時を劬むモニュメント」は、版画独特の白黒の対比と緻密な構成で魅力的である。

今回も見応えのある作品が多かった。今後、技術の研鑽に励むとともに、絵の内容を深めるよう期待している。(西川周三、松川寛、露口敏幸)」

◎第24回洋画部会員展（6月17日(木)～6月20日(日) 会場・あわぎんホール）

今回の出品総数は88点、各作品とも力作ぞろいで見ごたえのある展覧会になった。会員相互の研究・交流の場として、更なる充実を図り、県民の方々から愛好される展覧会になるよう願ってやまない。会員の皆様のご協力を切にお願いしたい。

なお、会期中の6月19日には、会員相互の親睦を深める懇親会をホテルアグネスで開催した。当日、佐野比呂志会長の制作の基本姿勢や絵にまつわるお話をきくとともに今後の会員展の在り方などについて意見を交換し、終始なごやかなひとときを過ごした。

会員消息

(県展・放美展を除く。五十音順。)

- 藍谷 浩平 第70回美術文化展（東京都美術館）、第70回関西美術文化展（大阪市立美術館）、中央公民館洋画教室作品展（阿波銀プラザ）、藍谷浩平展（森喫茶店）

- 青木 幸子 第33回八紅展（阿波銀プラザ）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第25回八万文化祭（八万コミュニティーセンター）
- 阿部 昌子 第41回土曜展（徳島市シビックセンター）、第24回洋画部会員展・第66回青美展（あわぎんホール）
- 東 紀美子 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、徳島アート21第8回展（阿波銀プラザ）、第9回つくしの会・波の会合同絵画展・第39回阿南市文化祭美術展（阿南市文化会館）
- 天田 弘之 第43回モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 井沢 忠昭 第28回青彩美術展（徳島市シビックセンター）、第39回阿南市文化祭美術展（阿南市文化会館）、加茂谷文化祭（加茂谷公民館）
- 伊勢 浩章 徳島アート21第8回展（阿波銀プラザ）、第34回15人展（ヨンデンプラザ徳島）、第24回洋画部会員展・第28回徳島平和美術展・第66回青美展（あわぎんホール）、西崎志帆・伊勢浩章二人展（ギャラリー喫茶グレイス）
- 乾 繁春 第70回美術文化展：会員出品（東京都美術館）、美術文化会員賞受賞・同展巡回高松展（高松市立美術館）、同展関西展（大阪市立美術館）、第69回世代美術展（徳島市シビックセンター）、第8回高松絵画美学展：賛助出品（高松市立美術館）、第3回徳島絵画美学展：賛助出品（阿波銀プラザ）
- 宇高 桂子 第64回女流画家協会展（上野の森美術館）、女流画家協会展・関西展（原田の森ギャラリー）、女子美術大学四国四支部合同展（阿波銀プラザ）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 越久 高照 第66回青美展・第24回洋画部会員展・第38回徳島市芸術祭美術展・第28回徳島平和美術展（あわぎんホール）、第25回藍美展（藍住町福祉センター）
- 大西 文代 第28回青彩美術展（徳島市シビックセンター）
- 大西 道夫 第60回モダンアート展（東京都美術館・京都市立美術館）、第43回モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、小松島市美術展（小松島市中央公民館）、第30回記念道草展（喫茶やまなみ小松島店）
- 大西利津子 第38回徳島市芸術祭美術展：無鑑査出品、第24回洋画部会員展、第9回徳島新聞カルチャー展（あわぎんホール）、春季徳島二紀展、大西利津子作品展（阿波銀プラザ）、第25周年記念徳島二紀展（県立近代美術館）
- 大野 文雄 第17回徳島市加茂文化祭（徳島市加茂コミュニティーセンター）
- 小笠原秋子 第38回徳島市芸術祭美術展・第24回洋画部会員展・第9回徳島新聞カルチャー展（あわぎんホール）、三好郡・市教職員春風展（たばこ資料館）、三

好市文化祭（ヨンデンプラザ池田）、三野町文化祭（三野町体育館）

- 岡田 君代 第28回徳島平和美術展・第66回青年美術展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第34回15人展（ヨンデンプラザ徳島）
- 加賀谷愛美 第43回モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）、第60回モダンアート展福岡（福岡市美術館）、第64回女流画家協会展（上野の森美術館）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 加川由紀子 徳島アート21第8回展（阿波銀プラザ）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 片山 富市 第76回旺玄会展：会員出品（東京都美術館）、同大阪巡回展（大阪市立美術館）、第14回旺玄会東四国支部展（阿波銀プラザ）
- 片山美代子 第66回現展（国立新美術館）、現展関西展（大阪市立美術館）、個展（吉野川文化研修センター）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第3回徳島絵画美学展（阿波銀プラザ）、阿波市文化祭（土成コミュニティーセンター）
- 河田 安市 第42回日展、第86回白日展：会員出品（国立新美術館）、同巡回展（大阪、名古屋、九州）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 河野 公子 第70回美術文化展（東京都美術館）、美術文化四国展（高松市立美術館）、第28回徳島平和美術展・第24回洋画部会員展・第66回青美展（あわぎんホール）、第34回15人展（ヨンデンプラザ徳島）、二人展（ギャラリーカフェブリッサ）
- 岸本 花子 第38回徳島市芸術祭美術展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第33回八紅展（阿波銀プラザ）、第25回八万文化祭（八万コミュニティーセンター）
- 黒崎 志郎 第6回日本水彩選抜展（東京セントラル美術館）、第42回日展、第63回示現会展（国立新美術館）、同巡回徳島展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第98回日本水彩展（上野の森美術館）、第41回示現会徳島支部展（阿波銀プラザ）
- 答島 久子 第49回阿南市美術協会展・第9回つくしの会・波の会合同絵画展・第39回阿南市文化祭美術展（阿南市文化会館）、第3回羽ノ浦公民館フェスタ（羽ノ浦公民館）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 小浜 敏也 徳島アート21第8回展（阿波銀プラザ）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第9回つくしの会・波の会合同絵画展・第39回阿南市文化祭美術展・第49回阿南市美術協会展（阿南市文化会館）
- 後藤田仁一 第70回美術文化展：会員出品（東京都美術館）、第70回関西美術文化展：

会員出品（大阪市立美術館）、第69回世代美術展（徳島市シビックセンター）、悠美展（ヨンデンプラザ徳島）

- 後藤 ユリ子 第70回美術文化展（東京都美術館）、同京都巡回展（京都市美術館）、同高松巡回展（高松市美術館）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 近藤 克子 第3回パルの会洋画展（ヨンデンエネルギープラザ阿南）、第1回水彩連盟徳島支部展（阿波銀プラザ）、第76回東光展（上野の森美術館）、第32回東光会徳島支部展・ふるさとを描き遺す会展（あわぎんホール）、第32回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 斉藤 靖子 日本板画院展（東京シアター1010）、第1回徳島女流美術展・第38回絵で見る徳島展（あわぎんホール）、2人展（神山町杣人）、3人展（引田町遊遊ギャラリー）
- 嵯峨 潤三 第29回すどり洋画展（西宮市立北口ギャラリー）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、嵯峨潤三抽象画小品展（ギャラリー喫茶グレイス）
- 佐藤 敬子 第66回青美展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）・第3回徳島絵画美学展（阿波銀プラザ）
- 佐藤 友美 第76回東光展（上野の森美術館）、第32回東光会徳島支部展・第24回洋画部会員展・第66回青美展（あわぎんホール）、第32回鴨島美術グループ展・阿波・吉野川二市交流展（吉野川市文化研修センター）、山川絵画クラブ展（公民館）
- 佐野比呂志 第38回徳島市芸術祭美術展：審査員出品・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第69回世代美術展（徳島シビックセンター）、徳島アート21第8回展：賛助出品（阿波銀プラザ）、第47回関西独立展：無鑑査出品（大阪市立美術館）
- 四宮 久子 第64回二紀展：同人賞（国立新美術館）、第25周年記念徳島二紀展、神戸二紀展：トーアロード賞、神戸二紀俊英展（ギャラリーほりかわ）
- 島上 二郎 第76回東光展（上野の森美術館）、第32回東光会徳島支部展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 志摩 政照 第32回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 清水 亟悞 第42回清水亟悞個展（徳島そごう5階美術画廊）、第43回清水亟悞個展（東京渋谷ギャラリー道玄坂）
- 下時治郎秀臣 第86回白日展（国立新美術館）、巡回展（愛知、大阪）、水無月会展（銀座相模屋美術画廊）、英英紅緑展（日本橋三越）、現代洋画秀作展（あわぎんホール、梅田画廊）、洋画個展（美郷ホテル館）、第42回日展（国立新美術館）

- 杉本 祥子 徳島アート21第8回展（阿波銀プラザ）、第28回徳島平和美術展、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第34回15人展（ヨンデンプラザ徳島）、杉本祥子油絵と淡彩スケッチ展（ギャラリー喫茶グレイス）
- 鈴木 敬子 第86回白日展（国立新美術館）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、吉野川市総合美術展・第32回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、第23回アトリエM展（阿波銀プラザ）
- 住友 政雄 画展ふるさと展・ふるさとを絵で遺す会展（あわぎんホール）、吉野川市文化祭（川島町体育館）、阿波・吉野川二市交流展・吉野川市総合美術展・第32回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 田岡 荘二 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 武田 洋子 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、三好郡・市教職員春風展（たばこ資料館）、東祖谷文化まつり（歴史資料館）、阿波・吉野川二市美術交流展（市場ふれあいセンター）、阿波市文化協会文化祭（土成トレーニングセンター）
- 田中シゲミ 第38回徳島市芸術祭美術展：招待出品・第9回徳島新聞カルチャー展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、大麻町文化祭（鳴門市大麻町公民館）
- 田中 康子 第33回八紅展（阿波銀プラザ）、国府文化祭（国府コミュニティーセンター）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 玉田 秀子 第38回徳島市芸術祭美術展：招待出品、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、徳島アート21第8回展・第33回八紅展（阿波銀プラザ）、第9回つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）
- 為実美恵子 第23回三好市文化まつり（ヨンデンプラザ池田）
- 露口 敏幸 第69回世代美術展（徳島市シビックセンター）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 手塚てる子 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、個展（徳島市シビックセンター）
- 長尾 弘久 徳島アート21第8回展・第8回徳島版画展（阿波銀プラザ）・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 中辻奈美枝 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、徳島アート21第8回展・（阿波銀プラザ）、阿南市美術協会展・第39回阿南市文化祭美術展、第9回つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）
- 中村 恵一 第24回日洋展（国立新美術館）、同大阪会場（大阪市立美術館）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 南城ミツ子 第76回東光展：会員出品（上野の森美術館）、第32回東光会徳島支部展・

- 第38回徳島市芸術祭美術展：招待出品・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、三谷ミヤ子・南城ミツ子二人展（阿波銀プラザ）
- 仁木 幸子 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第25回八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 西川 敬子 第1回徳島女流美術展（あわぎんホール）、徳島アート21第8回展（阿波銀プラザ）
- 西川 周三 徳島アート21第8回展（阿波銀プラザ）
- 西崎 志帆 昭和美術展徳島支部展（阿波銀プラザ）・第28回徳島平和美術展（あわぎんホール）・西崎志帆・伊勢浩章二人展（ギャラリー喫茶グレイス）
- 二條 均 第24回洋画部会員展・第28回徳島平和美術展（あわぎんホール）、板野美術クラブ展（板野町文化の館）
- 野口 暁子 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第33回八紅展（阿波銀プラザ）
- 野上 恵子 第38回徳島市芸術祭美術展・第9回徳島新聞カルチャー展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第33回八紅展（阿波銀プラザ）、第25回八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 野村 雅子 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、徳島アート21第8回展（阿波銀プラザ）、第9回つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）
- 林 康太郎 第70回美術文化展（東京都美術館・京都市美術館・高松市美術館・熊本県立美術館分館）、第70回関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（近代美術館）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 林 静代 第13回アトリエバクグループ展（阿波銀プラザ）
- 林 信夫 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 林 文子 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、阿南市美術協会展・第39回阿南市文化祭美術展・第9回つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）
- 日野 邦恵 第76回東光展（上野の森美術館）、第32回東光会徳島支部展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第32回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 平田スミコ 第64回女流画家協会展（上野の森美術館）、第24回洋画部会員展・第66回青美展（あわぎんホール）、一宮文化祭（一宮コミュニティセンター）、女流画家協会展関西展（原田の森ギャラリー東館）
- 平木 美鶴 第78回日本版画協会展（京都市立美術館）、第64回二紀展（国立新美術館）、多摩美術大学版画の40年展（多摩美術大学美術館）、第14回中華民国国際版画ビエンナーレ展（台湾国立美術館／中華民国）
- 福良 哲子 第38回徳島市芸術祭美術展：招待出品・第24回洋画部会員展・第9回徳島

新聞カルチャー展（あわぎんホール）、第33回八紅展（阿波銀プラザ）、加茂谷文化祭（加茂谷公民館）

- 藤井 香世 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 藤崎 恭子 徳島アート21第8回展（阿波銀プラザ）
- 藤丸 家栄 徳島アート21第8回展（阿波銀プラザ）、三好市文化祭（ヨンデンプラザ池田）
- 堀江 幸子 第24回洋画部会員展・第66回青美展（あわぎんホール）、吉野川市・阿波市二市交流展・第32回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、鴨島文化サロン展（本郷ギャラリー）
- 前川フキ子 第9回つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、羽ノ浦町公民館フェスタ（羽ノ浦公民館）
- 梶田 務 第32回東光会徳島支部展・第24回洋画部会員展・第38回徳島市芸術祭美術展：審査員出品（あわぎんホール）、第3回パルの会洋画展：賛助出品（ヨンデンエネルギープラザ阿南）
- 松川 寛 第43回モダンアート徳島支部展・第23回アトリエM展（阿波銀プラザ）、第60回モダンアート協会展（京都市美術館）、第29回関西モダンアート展（兵庫県立美術館）、第42回石井美術の会作品展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 真鍋 弘子 徳島アート21第8回展（阿波銀プラザ）
- 真野 孝彦 第6回吉野川市・阿波市絵画交流展（吉野川市文化研修センター）、第6回個展（そごう百貨店）、第3回レインボー展・第1回神山教室展（喫茶ギャラリーブリッサ）、第4回レインボー展（フジムラ喫茶ギャラリー）、国府第34回文化サロン展（鴨島本郷ギャラリー）
- 馬淵 博子 第11回アトリエバク展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 三沢 尚子 第22回療四人展・それいゆ水彩画展（阿波銀プラザ）、関西水彩画会展（大阪市立美術館）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 三谷多美子 第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、レモンの会展（貞光ゆうゆう館）
- 三谷ミヤ子 第38回徳島市芸術祭美術展：招待出品・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、東光会第4回小品展（上野の森美術館）、東富田・第25回八万文化祭（八万コミュニティーセンター）、東富田絵画展：賛助（ふれあい健康館・アンデルセンギャラリー）、第33回八紅展、三谷ミヤ子・南城ミツ子二人展（阿波銀プラザ）
- 峯 幸子 アトリエ・マイン展・峯幸子展（阿波銀プラザ）、第1回徳島女流美術展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）

- 三好 初子 第76回東光展：会員出品（上野の森美術館）、第32回東光会徳島支部展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第25回藍美展（藍住町福祉センター）
- 山口 明美 第33回八紅展（阿波銀プラザ）、第24回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 山口美千代 第66回青美展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、三好市文化祭（ヨンデンプラザ池田）
- 山田 智千 第41回土曜展（徳島市シビックセンター）、第9回徳島新聞カルチャー展・第42回石井美術の会展（あわぎんホール）、第3回徳島絵画美学展（阿波銀プラザ）
- 結城 栄子 第38回む・アート展（徳島県立近代美術館）
- 吉田 実 阿波・吉野川市交流展・鴨島四季彩会展・第32回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、佐藤友美・吉田実二人展（国府町府中藤村コーヒー花実ギャラリー）
- 米沢 博 第38回徳島市芸術祭美術展・第15回徳島県健康福祉祭美術展（あわぎんホール）、第23回全国健康福祉祭美術展（石川県文化交流館）
- 和田 寿子 第38回徳島市芸術祭美術展・第24回洋画部会員展（あわぎんホール）、第33回八紅展（阿波銀プラザ）、第25回八万文化祭（八万コミュニティセンター）

写 真 部

部 会 長 櫛 淵 魏

年間展望

◎第65回県美術展（10月9日(土)～17日(日) あわぎんホール）

審査員には本県出身で今や日本を代表する写真作家、三好和義先生をお願いした。65回の節目の年に徳島県展に深い所縁のある先生をお迎えしたことは記念すべきことである。ここに先生の公式ブログの一文を掲載しておく。

「僕が高校生の時、青春の全てをかけていたのが県展。県展に入賞するのが目標に写真の腕を磨いていました。その県展の審査を今年初めてやらせていただきました。自分が応募していたところに審査に行くというのは光栄なことです。ここで僕は岩宮武二先生に毎年いくつも「特選」をいただいて僕の写真家の道はここから開かれたんです。審査は公開です200人余りの目線が僕の指先に集まります。スゴイ熱気。心を打つ素晴らしい作品が多く、選びがいのある審査でした。手前味噌ですが、徳島県は全国でも写真のレベルが高く、みんなすごく熱心です。800点余りの中から160点が選ばれ、上位作品は見ていると引き込まれて、涙が出そうなものばかりです。」

応募総数は864点。昨年より100点程増えた。この中より特選4点。準特選9点。奨励賞8点。入選142点が選出された。

特 選	「お遍路」	喜多 昌弘 (特別賞)
〃	「夜更けの街」	大和 章人
〃	「少年剣士」	郡 訓子
〃	「田植えの頃」	富岡佳代子
準特選	福井 純子・井原武四郎・谷中千恵子・川口 進 岡村 清・福原 和代・姫野 博司・川真田慶治 今出 弘	

(選評については別項県展審査評欄参照)

◎第18回放美展（5月2日(日)～6日(木) あわぎんホール）

応募総数475点。昨年より40点増であった。この中から放美賞1点、優秀賞19点、入選168点を選出した。審査員は、荒井賢治、上野照文、櫛淵魏が担当した。

放美賞 「LOVE」平澤 昭世
 優秀賞 早瀬 茂・賀川 泰弘・谷 ひづる・村上 寛治
 渡邊 信二・榎本 悟・野口 道子・辻 義憲
 福居 幹夫・中村真智子・板東 律雄・平澤 澄子
 松崎 真弓・宮本 幸治・四宮 正恵・島 廣幸
 渡辺 幸・水口登志夫・福井 純子

◎県美協写真部撮影会（6月27日(日)）

今回は少々趣向を変えて、世界最大級の水族館、大阪海遊館とその周辺を撮影地を選んで開催した。参加人員は31名であった。

阿南6時出発、沖洲マリニターミナル経由。徳島駅前7時発、10時現地着。15時の出発まで水族館内や美術館、港風景などを撮影。18時過ぎ全員無事帰着。会の開催には次の各委員にお世話願った。

三木 晴夫・井上 憲治・井藤 光章・林 敏彦・古井 謙吉

会員の訃報

稲井芳男氏（阿波市吉野町）が5月20日逝去されました。放美展、県展はじめ多くのコンテストで大いに活躍されたヴェテラン写真家でした。享年83才。

笹田敏雄氏（阿南市富岡町）が7月20日逝去されました。氏は県展初期から活躍され、1976年31回展より招待作家に。阿南市を中心に多くの後進を育成されました。

お二人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

各分野での会員の活動状況 ～中央展・個展・団体展など～

◎三好和義写真展「京都の御所と離宮」

— 京都御所、仙洞御所、修学院離宮 —

（1月14日(木)～30日(土) 東京・銀座 和光本館和光ホール）

— 桂離宮 —（1月7日(木)～23日(土) 和光並木館 和光並木ホール）

◎第95回二科展写真部門（9月1日(水)～13日(月) 東京・国立新美術館）

会 員 出 品：荒井 賢治

会 友 出 品：森住 博・大和 健司・西條 征二

会 友 推 挙：平野 史子

入 賞：富岡佳代子（キャノン賞）・山本 雅敏（ウッドマン賞）

入 選：森内 昭男・大和 章人・石川 徹雄・榎本 悟・久保 翠
四宮 正恵・志摩 育美・西野 倫子・宮前 稔・二階 博司
林 好一・谷 嘉明・平澤 昭世・平澤 澄子・西岡 祥一
渡邊 信二・平野 史子・郡 英明・森崎 敦子・山口 正明

◎第57回阿波踊り写真コンクール（9月18日(土)～27日(月) 徳島市阿波おどり会館）

特 選：板東 律雄・森内 昭男
準 特 選：長田 貞男・新居 修・高見喜美男・野口 道子
入 選：宮前 稔・山本 雅敏・富樫 晃・佐倉 幹雄・田中 義孝
平澤 澄子・林 好一・平澤 昭世・姫野 博司・福井 純子

◎第17回朝日四国写真展（11月7日(日) 松山市にて審査）

（展示2011年2月4日(金)～6日(日) 徳島市シビックセンター）

愛媛朝日テレビ賞：福井 純子

徳島県本部長賞：林 好一

特 選：野藤 敏美

入 選：船越 正文・関口つとむ・井藤 光章・姫田 慎治・宮本 幸治
姫野 博司・川真田慶治・藤本 英子・林 敏彦

◎第44回日本光画会「光」展（1月7日(木)～11日(月) 徳島市シビックセンター）

会 員 出 品：佐藤 義雄

光画奨励賞：多田 進

入 選：吉村 敏嗣

◎第41回ナルトぴんぼけクラブ写真展（2月11日(木)～14日(日) キョーエイ鳴門駅前店4F）

会 長：賀川 泰弘

出 品 者：木田 英之・賀川 泰弘・小川 勝・元木 強・武地 雅

展開催に合わせクラブ展40周年を記念し写真集を作成した。

◎第25回全日本写真連盟県本部写真展（2月12日(金)～14日(日) 徳島市シビックセンター）

県本部委員長：阿部 啓三

出 品 者：阿部 啓三・井藤 光章・井上 憲治・上野 照文・大津 勝治
川真田慶治・久我 千鶴・佐治 孝・佐藤 義雄・田中 義孝
橋本 圭祐・林 敏彦・林 好一・姫田 慎治・姫野 博司
福井 純子・藤川 光昭・古井 謙吉・三木 晴夫・宮本 幸治
森 賢一・森住 博・吉村 敏嗣

◎岩崎英昭写真展 “写真集「美しい徳島」出版記念写真展”

(2月17日(水)～21日(日) 徳島シビックセンター)

◎第11回大貝久義個展「俳写歳時記季節のきらめき」

(4月12日(月)～30日(金) 徳島市シビックセンター)

◎徳島風景写真協会「自然の四季風景写真展」

(4月14日(水)～19日(月) 徳島市シビックセンター)

会 長：大貝 久義

出 品 者：大貝 久義・新居 奏・森 光

◎第8回写好館クラブ写真展 (4月23日(金)～25日(日) ヨンデンプラザ徳島)

会 長：赤尾 壽一

支 部 長：木田 英之・赤尾 壽一・岸田 義市

◎第11回ニッコールクラブ徳島支部写真展(4月23日(金)～25日(日) 徳島市シビックセンター)

支 部 長：櫛淵 魏

出 品 者：阿部 啓三・井藤 光章・川真田慶治・櫛淵 魏・西條 征二
佐治 孝・佐藤 義雄・中川 定典・藤川 光昭・古井 謙吉
堀口 幸男・増田 寿・三木 晴夫・三木 理司・森 賢一

◎第27回サンカ会写真作品展 (4月24日(土)～26日(月) 徳島市シビックセンター)

代 表：森内 昭男

出 品 者：田中 伸廣・森内 昭男

◎第28回徳島平和美術展 (6月3日(木)～6日(日) あわぎんホール)

出 品 者：赤尾 壽一・岡村 清・賀川 泰弘・岸田 義市・木田 英之
武地 雅・林 好一・林 敏彦・福井 純子

◎第33回写真同人「炎」作品展 (6月4日(金)～6日(日) 徳島市シビックセンター)

代 表：西條 征二

出 品 者：阿部 啓三・荒井 賢治・井藤 光章・井上 憲治・川真田慶治
櫛淵 魏・佐藤 義雄・西條 征二・佐治 孝・田村 泰弘
伊達 照子・土橋 成行・野口 佳一・中川 定典・林 敏彦
古井 謙吉・堀口 幸男・森 賢一・大和 健司

◎第6回二科会写真部徳島支部展 (7月7日(水)～12日(月) 徳島市シビックセンター)

支 部 長：大和 健司

出 品 者：荒井 賢治・森住 博・大和 健司・西條 征二・池添 秀信
 石川 徹雄・梅本 貞範・榎本 悟・片岡嘉寿代・久保 翠
 郡 英明・四宮 正恵・志摩 育美・竹内 好文・田中 義孝
 谷 嘉明・土橋 成行・堤 信寿・富岡佳代子・富樫 晃
 新居 奏・二階 博司・西岡 祥一・西野 倫子・林 好一
 早瀬 茂・原田 章一・板東 律雄・姫野 博司・平澤 昭世
 平野 史子・藤川 光昭・正見 晃章・増田 寿・松原 玲子
 宮崎 行弘・宮前 稔・森内 昭男・森崎 敦子・山口 正明
 大和 章人・山本 雅敏・米塚 稔・渡邊 信二

◎第13回英藍アルテ写真クラブ展（7月23日(金)～25日(日) 阿波銀プラザ）

出 品 者：藤川 光昭・上野 照文

◎第24回徳島花を写す会写真展（8月20日(金)～22日(日) 徳島市シビックセンター）

代 表：佐藤 義雄

出 品 者：久保 英樹・佐藤 義雄・吉村 敏嗣

◎第10回「UNITED」写真展（8月27日(金)～29日(日) 阿波銀プラザ）

代 表：上野 照文

出 品 者：井上 憲治・上野 照文・多川 静守・根ヶ山 治・野口 佳一
 橋本 圭祐・林 敏彦・堀口 幸男・増田 寿

◎第50回記念写楽会写真展（9月10日(金)～12日(日) 徳島市シビックセンター）

会 長：櫛渕 魏

出 品 者：櫛渕 魏・上野 照文・川真田慶治・櫛渕 紳哉・関口つとむ
 中川 定典・古井 謙吉

◎木田英之写真展「昭和30年代の子どもたち」

（9月15日(水)～10月3日(日) 板野町ギャラリーカフェブリッサ）

◎徳島風景写真協会主催「自然の四季風景写真展」

（10月6日(水)～11日(月) 徳島市シビックセンター）

会 長：大貝 久義

出 品 者：大貝 久義・新居 奏・森 光

◎第12回大貝久義個展「俳写歳時記季節のきらめき」

（10月6日(水)～25日(月) 徳島市シビックセンター）

◎荒井慶治写真展「仏蘭西想」

(11月14日(日)～28日(日) 徳島市東新町ヒラオカギャラリー)

◎第5回日本風景写真協会「徳島支部」展

(11月16日(火)～21日(日) NHK徳島放送局ロビー)

支 部 長：岩崎 英昭

◎第5回写真同人「光」写真展 (11月27日(土)～29日(月) 徳島市シビックセンター)

会 長：田村 泰弘

出 品 者：田村 泰弘・木田 英之・伊達 照子・林 好一・林 敏彦
姫野 博司・福井 純子・三木 晴夫

◎第40回日本リアリズム写真集団徳島支部写真展「四国三郎とその流域partⅡ」

(12月3日(金)～5日(日) ヨンデンプラザ徳島)

支 部 長：木田 英之

◎木田英之「塾」写真展「那賀川の四季」

(12月6日(月)～10日(金) よんでんエネルギープラザ阿南)

出 品 者：林 好一・福井 純子・木田 英之

彫 刻 部

部 会 長 松 永 勉

年間展望

◎第65回県美術展（平成22年10月9日(土)～17日(日) あわぎんホール）

今回の審査は彫刻家で日本大学芸術学部教授の建畠朔弥先生にお願いした。今年の彫刻部門への出品総数は30点あり、そのうち入賞・入選した作品が18点であった。総数では昨年の出品数より4点増えている。傾向としては、これまで多数の出品があった石膏で仕上げた塑像が少なくなり、セラミックやガラスを使って表現した立体造形の作品などが入選している。彫刻という分野が幅の広い領域を含むことを考えれば当然だと言える。立体表現の面白さはいろいろな素材を活用して、自分なりの感性で作ってみることだと思う。その意味から個性的な作風で若手の入賞作品が毎年あるのは大きな励みになるであろう。

さて、今回審査は時間の限り丁寧に見ていただいた。そして例年行われている審査後には出品者1人1人に対して細かく納得のゆく説明がされた。彫刻に対しての基本姿勢や取り組み方など今後の制作の糧にしようと熱心に聞く者が多く、その点では公開審査の成果があった。

次に今回の審査評としては「“今”、“現在”を、どれだけ強く打ち出せているかをポイントにした。表現は否定でも、賛美でも構わない。われわれが好むと好まざるにかかわらず共有せざるを得ない“今”を感じさせる作品を感覚的に選び取った」と話された。

「特選」（徳島県知事賞）に選ばれた木村大志さんの作品「午前4時にダイブ」には「とまり木から飛び降りようとする瞬間のニワトリを生き生きと表現した作品。木の風合いが生きている。一言で言えば“おしゃれ”でタイトルもしゃれている。造形的な部分と全体の処理がうまくいった見事な作品。」との評価をいただいた。木村さんはずっと魚や動物をテーマにして写実的な部分と素材に余り手を加えないで素材感を生かした部分を組み合わせ造形の面白さを表現しようと試みている作家である。その個性的な表現が今回実を結び特選に選ばれた。これまで努力を積み重ねてきた結果であろう。木彫の味わいを表現できる作家として今後活躍してほしいと思う作家である。

「準特選」の武田亜希子さんの作品「未来船」については「鉄を素材としたオーソドックスな作品ではあるが、空間構成がしっかりと把握できている。」との評価であった。武田さんも毎年、鉄を使った作品を出品し、これまでに何度も受賞している作家である。今まで続けて追求しているスタイルをより深めようと工夫されている。幾何形態の展開

で自分の世界を作ろうとしているところに独特の造形が見れるのであろう。続けて頑張ってほしい。

次に、同じく「準特選」に選ばれた西村大喜さんの“inochi”には「石の有機的な質感をうまく生かし、量感とフォルムのバランスがよくとれている。」と述べられた。西村さんの出品作は石材を使った大作で、丸みをおびた形の中に生命を感じさせるような造形がされている。コツコツと時間をかけ石材を生かすよう努力した力作だと思える。西村さんは次回どんな作品を見せるのか期待したい若手の作家である。

全体の評としては「今回、実にさまざまな作品が出品されており、楽しませてもらった。入選作品のレベルは高く、指導者の充実ぶりがうかがえた。ただ、人体に関して言えば、“現代”の人間を表現する上でもっと別の可能性があるのではないか。また、徳島だけでなく全国的に見て彫刻界に元気がない。既成概念にとらわれず、一步踏み込んだ表現を追求する勇気がほしい。」と話された。

その他の入賞作品は「奨励賞」として大貝寿子さんの“明日”と安藝淳二さんの“家族（日曜の朝）”が選ばれた。大貝さんはセラミックの作品で造形的な感覚の良さが、2つを並べて空間を作るという方法でこれまでにない分野を開いている。陶彫という分野で新しい方向を見せてもらえるよう今後の活動に期待したい。安藝さんは毎年木彫の大作を出品している。今回は少し具象的部分もある作品だ。木の持つ温かみとテーマとする内容が素朴な表現で伝わってくるようである。素朴の扱い方も熟知されており、表現のねらいと技術の良さが重なって評価されたと思われる。次回の作品を楽しみにしたい。

◎第18回放美展（平成22年5月2日(日)～6日(木) あわぎんホール）

彫刻部門の出品総数は18点（16人）であった。出品作については多種多様の素材が使われ立体表現されていることが印象に残った。それは立体造形という視点から考えると、工芸とか彫刻の境界が必要でないことが再確認させられたと言える。それほどこの分野の領域が幅広いものとなってきた。

「放美賞」に選ばれた齋藤綾子さんの“hope”は全体の立ち姿がとても自然な形で素直に表現されている。技術の高さとともに、作者のひたむきが伝わってくる。腕や首、手足のつながりもバランスがよく取れている作品であった。

次に「優秀賞」を受けた大貝寿子さん“出合い”は陶芸というジャンルを超え、安定感のあるセラミックのオブジェの周りを金属の帯が軽やかに舞っているところに空間構成の面白さを感じる作品になっている。

全体的には彫刻を制作して、それぞれの主張する思いを形や素材にどのように置き換えれば良いのかその目的をはっきりと示すことが大事であると言えるのではないのか。（今回の審査員は、鎌田邦宏、上月佳代、居上真人が担当した）

会員消息

(県展・放美展関係は除く。順不同)

居上 真人	6 月	宮崎現代国際彫刻展出品	宮崎市宮崎空港
	9 月	第85回二科展：会友出品	国立新美術館
	10月～11月	第48回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
	11月	四国霊場一番札所に「回想」設置	鳴門市
	11月	亀井組徳島本店に「月夜の森の仲間達」設置	徳島市
	12月	神戸市長田区に「阿波の狸の底力」設置	神戸市
井下 俊作	8 月	第65回行動美術展：会員出品	国立新美術館
	10月	第65回行動美術展大阪巡回展：会員出品	大阪市立美術館
	10月～11月	第48回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
河崎 良行	3 月	第10回記念春季二紀展	東京都美術館
	3 月	よんでん芸術文化功労賞	よんでん文化振興財団(高松市)
	4 月	2010春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	8 月	第25周年記念徳島二紀展	徳島県立近代美術館
	10月	第64回二紀展	国立新美術館
	11月	「阿波藍千枚の布に挑む」プロデュースインスタレーション	県21世紀館エントランスホール
	12月	第4回現代日本彫刻作家展	箱根彫刻の森美術館
鎌田 邦宏	3 月	第10回記念春季二紀展	東京都美術館
	4 月	2010春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	8 月	第25周年記念徳島二紀展	徳島県立近代美術館
	10月	第64回二紀展	国立新美術館
上月 佳代	1 月	第38回徳島市芸術祭美術展	あわぎんホール
	3 月	第10回記念春季二紀展	東京都美術館
	4 月	2010春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	6 月	創立10周年記念第1回女子美術大学同窓会四国4支部巡回展	阿波銀プラザ
	8 月	第25周年記念徳島二紀展	徳島県立近代美術館
	10月	第64回二紀展	国立新美術館
佐藤 隆	10月～11月	第48回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
武田亜希子	3 月	第10回記念春季二紀展	東京都美術館
	10月	第64回二紀展	国立新美術館
長岡 強	3 月	第86回白日展：会員出品	国立新美術館
	6 月	第40回日彫展：会員出品	国立新美術館
	10月	第42回日展：出品委嘱	国立新美術館
濱口 恵	2 月	第43回モダンアート徳島支部展(版画会員出品)	阿波銀プラザ

		4 月	第60回モダンアート協会版画会員出品	仙台メディアテーク
		10月～11月	第48回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
林	一美	2 月	徳島人材センター総会に出品	徳島人材センター
		4 月	N H K 徳島放送局作品発表展示会	N H K 徳島放送局
東	光司	3 月～4 月	第 3 回神山麗し作品展	神山町
		5 月	ストーンミュージアム石の彫刻展2010	高松市庵治町
		7 月	第60回記念モダンアート展	京都市美術館
		10月	第 2 回それぞれのあかり展	GALLERYWOOD & MIRROR(江洲鏡台店)
松永	勉	1 月	第38回徳島市芸術祭美術展：特別出品	あわぎんホール
		2 月	早稲田大学高等学院に「風景のはじまり」設置	東京上石神井
		2 月	渋谷マンションセルフイスタ渋谷に「風景の循環」設置	東京渋谷
		8 月	Brillia City ひばりが丘に「風景のはじまり」設置	東京西東京市
		8 月	東急ウェリナス大岡山に「環」設置	東京大岡山
		9 月	第65回行動美術展：会員出品	国立新美術館
		10月	第65回行動美術展大阪巡回展：会員出品	大阪市立美術館
		10月～11月	第48回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
		11月	第24回UBEビエンナーレ現代日本彫刻展：模型入選	宇部市

美術工芸部

部会長 七 條 猪三郎

年間展望

◎第65回県美術展（平成22年10月9日(土)～17日(日) あわぎんホール）

平成22年（2010年）、第65回県美術展、美術工芸部門の応募点数は194点出品者は137人で、昨年の出品数より32点下まわった。

分野別にみると、陶芸が昨年より22点少ない87点で最多、次に押し花、パッチワーク、染織、ガラス、かずら、七宝金工、木竹、人形など多くの分野の作品が出品された。

審査は厳正を極め、午後1時から5時まで丁寧に審査に当たっていただいた。最初に入選106点を選び、その中から賞候補を約20点選び、そこから最終的に特選2点（1点は県議会議長賞）、準特選4点、奨励賞3点を決定した。

入選作品106点（入選率54.6%）に無審査作品9点を加えて115点が展示され盛況となった。

今回の審査員は東京芸術大学教授の山下了是先生にお願いした。

審査の総評としては、全体的に高い水準で、生き生きとして、作る喜びを感じる力作が多かった。入賞には至らなかったが、賞に選びたい作品もいくつかあった。

粋のよさや新鮮さにあふれ、見る人が元気になるような作品を選んだ。また、素材のよさや、技法によって自分の感覚を十分に生かしているかも審査基準とした。

県議会議長賞の矢野藍游「つばめ」（染色）は、布という素材の魅力と、藍染というすがすがしさがストレートに感じられた。伸び伸びとしていて非常に気持ちがいい色は藍、模様はツバメ、古い技法で柄も目新しくはない。しかし、藍染の絞りの要素と布の素材が単純に生きている。柄と素材が合っていれば、見る人に感動を与えることができる。

特選の石井春夫「乱舞」（陶器）は、茶色を基調にした落ち着いた色合いの花器。白を織り交ぜることで明るさを持たせている。形とたたずまいがとても堂々としている。柄はシダ類のような植物が生命力にあふれ、見る人に元気を感じさせ、訴えるものがある。手先の仕事でなく、素材と技法のよさを生かすのが工芸である。素材と技法の魅力をどこまで伸ばし、自分のものとして打ち出せるか。素材によっては、すぐに出来上がってしまい、作品がクラシック風に流れている人もいる。その中でも、独自のものを少しでもだしてほしい。いらぬものは作品の中から捨てることが大切。大中小をなんで

も詰め込むのではなく、思い切って大きなものと、うんと小さいものだけにすれば、その間は見る人が想像してくれる。

技術的に上手にきれいに作ろうという気持ちでなく、堂々としていればいい。既成概念にとらわれず、自分自身のものを作ってほしい。どんな作品でも、自分独自の表現世界を築いてほしい。技術が伴わないと表現できないという壁はあるが、技術よりも何かを表現したいという思い、すなわち創造意欲こそが大切だ。

山下了是先生には、今回の厳しい審査の裏には、心温まるご激励や貴重なご指導をいただきました。改めて深甚の謝意を表し今後の発展の糧としたい。

特選（県議会議長賞）	矢野 藍游「つばめ」（染色）
〃	石井 春夫「乱舞」（陶芸）
準特選	松原 敦子「桃色の風」（パッチワーク）
〃	田村 恵子「碧い国」（パッチワーク）
〃	楠 博子「そよそよと、ゆらゆらと」 (パッチワーク)
奨励賞	斉藤 和彦「トキメキの詩」（金工）
〃	長尾 敏子「宙に翔」（ガラス）
〃	平尾 静子「山彩文方壺」（陶芸）

◎第18回放美展（平成22年5月2日(日)～5月6日(木) あわぎんホール）

平成22年（2010年）第18回放美展美術工芸部門は、出品点数168点（出品人数121人）で昨年並みであった。陶器が大半を占め、押し花が増えてきている現状は昨年と同じであるが、各ジャンルとも作品の質が充実し、造形的な表現意図が鮮明に表現されるようになった。これが全体的なレベルアップにつながり充実ぶりを伺わせるようになった。

審査は厳正を極め、放美賞1・優秀賞7は実力のあるベテランの活躍が目立った。入選104点を加え、総入選数は112点でいずれも秀作ぞろいである。

放美賞、吉田陽子の陶芸「春陽」は、春の陽光が燦々と降り注ぐ様を白の素焼きに青磁釉の線紋を配し温和で清潔感あふれる作品に仕上げている。群を抜く秀作である。

優秀賞は陶器3点、ガラス1点、パッチワーク1点、押し花1点、合計7点が選ばれた。いずれも各ジャンルを代表する造形性の高い作品である。

（審査員：松下雄介・森賢一・山上馨）

放美賞 吉田 陽子「春陽」（陶芸）

優秀賞	大貝 寿子「月の詩」(陶芸)
〳	南 郁代「爽Ⅱ」(陶芸)
〳	家形笑美子「お月さま」(かずら)
〳	下内 良一「祭器」(陶芸)
〳	宇都宮二美「はじまりの時」(パッチワーク)
〳	矢野 藍游「大和」(染)
〳	近藤佐起江「円」(押し花)

会員消息

(県展・放美展は除く)

大貝 貞雄	・ 第38回徳島市美術展 (無鑑査)	1 月	県郷土文化会館
	・ 2010チャレンジとくしま芸術祭	1 月	徳島県立近代美術館
	・ 第38回県手工芸展 (努力賞)	11月	県郷土文化会館
	・ 第19回高越陶芸クラブ展	12月	貞光ゆうゆう館
大貝 寿子	・ 第38回徳島市美術展 (無鑑査)	1 月	県郷土文化会館
	・ 2010チャレンジとくしま芸術祭	1 月	徳島県立近代美術館
	・ 2010陶芸文化振興財団展	6 月	国立新美術館
	・ 第38回県手工芸展 (賛助出品)	11月	県郷土文化会館
	・ 第19回高越陶芸クラブ展	12月	貞光ゆうゆう館
太田 裕子	・ 華の千年芸術奉納祭展 (金賞)	4 月	東京ドームホテル
越 由子	・ 第49回日本現代工芸美術展	3 月	東京都立美術館
	・ 第 9 回東吉野教室パッチワークキルト展	10月	阿波銀プラザ
	・ 第48回現代工芸美術四国会展	11月	高松三越
	・ 第29回ふう布パッチワークキルト展	11月	徳島市シビックセンター
西 浩子	・ 第 1 回徳島女流美術展	5 月	あわぎんホール
	・ 女子美術大学同窓会四国 4 支部巡回展	6 月	阿波銀プラザ
落久保重利	・ 東風会第 3 回作陶展	9 月	東京芸術劇場
多智花佐代子	・ 第49回日本現代工芸美術展	3 月	東京都立美術館
	・ 第42回日展	10月	国立新美術館
	・ 第48回現代工芸美術四国会展	11月	高松三越
森 賢一	・ 第49回日本現代工芸美術展	3 月	東京都立美術館
	・ 第42回日展	10月	国立新美術館
	・ 第48回現代工芸美術四国会展	11月	高松三越

山本 和子	・第49回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・平成22年度全国現代クラフト展	9月	あわぎんホール
	・第22回全国手工芸コンクール in 兵庫	10月	兵庫県民アートギャラリー
	・第48回現代工芸美術四国会展（奨励賞）	11月	高松三越
吉田 陽子	・陶芸文化振興財団花の器コンテスト	2月	埼玉県陶芸会館
	・2010陶芸文化振興財団展	6月	国立新美術館
	・第1回徳島女流美術展	5月	あわぎんホール
四十宮年代	・第38回徳島市美術展（特別出品）	1月	県郷土文化会館
	・第25回国民文化祭岡山2010美術展（入賞）	10月	岡山真庭市
	・第16回徳島県健康福祉祭美術展（知事賞）	12月	県郷土文化会館
龍木 秀子	・第49回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・インターナショナルキルトフェスティバル	10月	米国ヒューストン
四宮 千代	・つくしシルバー陶芸教室	年に1回	作品発表会
矢野 款一	・日本工芸会正会員展	5月	東京日本橋三越
	・陶芸三人展	9月	徳島市シビックセンター
	・日本工芸会四国支部展（特待者出品）	10月	高松三越
小栗加代子	・第49回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・インターナショナルキルトフェスティバル	10月	米国ヒューストン
	・第42回日展	10月	国立新美術館
橘 恵	・北島町文化祭	10月	北島町総合庁舎
	・阿波藍 X 未来形プロジェクト展	10月	脇町藍商吉田家住宅
松下 雄介	・松下雄介、敏之作陶展	4月	徳島ギャラリーM&M
	・栩栩会展	8月	東京日本橋三越
丸居 哲雄	・エナジー2010	10月	文化の森21世紀館
	・上板町文化祭	10月	上板町中央公民館
	・第10回全国障害者芸術文化徳島大会	12月	アスティとくしま
松下 慶一	・松下慶一作陶展	5月	ギャラリーモアナ
	・日本工芸会四国支部陶芸部会展	6月	松山三越
藤井 哲信	・藤井哲信ガラス展	5月	鳥取市ギャラリー栄光舎
	・ビアマグランカイ 8	6月	札幌芸術の森
	・藤井哲信吹きガラス展	7月	大丸京都店
	・藤井哲信ガラス展	9月	徳島市ギャラリーモアナ
	・阿波藍 X 未来形プロジェクト展	10月	脇町藍商吉田家住宅

川真田 弘	・ 藍色の世界展	9 月	藍住町藍の館
	・ 川真田弘藍型絵染展	9 月	函館ギャラリー村岡
	・ 藍染講習会	10月	北海道森町緑の村
	・ 川真田弘藍型絵染展	11月	鳴門市池内コーヒー店
	・ 川真田弘藍型絵染展	12月	阿波銀行鴨島支店
南 郁代	・ 吉野川市総合美術展	7 月	吉野川市文化研修センター
	・ 吉野川市文化祭	10月	吉野川市川島体育館
	・ 高越陶芸クラブ展	12月	貞光ゆうゆう館
南 泰樹	・ 吉野川市総合美術展	7 月	吉野川市文化研修センター
	・ 吉野川市文化祭	10月	吉野川市川島体育館
	・ 高越陶芸クラブ展	12月	貞光ゆうゆう館
曾江 司	・ 美馬市文化祭	10月	美馬市文化施設アリーナ

書 道 部

部 会 長 荒 井 彭 仙

年間展望

◎第65回県美術展（第2期10月19日(火)～27日(水) あわぎんホール）

今回の応募数は、821点、出品者数518名であった。前回より3点、21名の減少となったが、2点出品者の安定により、21名の減少に対し3点減という小幅にとどまった。

今回の審査員は大河内仙嶽、師田久子、飯高和子、の三先生で、審査の結果、入賞・入選は353点（入選率43%）であった。各先生方は、徳島県の書のレベルの高さに驚かれた御様子で、伸びやかさとバランスを配慮した優れた作品には徳島の風土を重ねられた。そして今後も、この地を生かした個性的な自己表現の方法を追求するようにと期待を述べられた。

展示総数は、特別出品・招待・無鑑査・賛助出品の46点を加えて399点が全期間展示された。

◎第18回放美展（5月2日(日)～6日(木) あわぎんホール）

応募数205点、出品者数184名（前回172点、153名）であり前回より33点、31名の増となった。

今回は、放美賞1点、優秀賞8点、入選103点、役員を含めて120点の展示となり、高校生の参加が3分の1を占める初々しい展となった。

（審査員：武市鳴雲・竹田和代・長原皋聖）

会員の訃報

2007年から副会長を務めていただいていた新居藍州先生が平成23年1月4日逝去された。先生は「徳島雪心会」を1971年設立、会長となり、県美協書道部会長などを務め、1986年の県書道展創設や2002年の県立文学書道館の開設に尽力された。享年87才。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

◎社中展・個展等

○萬福寺拝宮和紙 書・版画写真展 萬福寺

1月9日～ 10日

○第33回清潮書道会全国展	大阪市立美術館	1月18日～	23日
○第34回東玄書道会展	阿波銀プラザ	2月6日～	8日
○第44回清潮書作展	あわぎんホール	3月5日～	7日
○第18回春藤大耿ファミリー書展	喫茶グレイス	3月10日～	4月6日
○第30回書研社展	あわぎんホール	3月26日～	28日
○第7回五果会書展	県立文学書道館	3月26日～	28日
○第39回光輪社書作展	県立文学書道館	4月2日～	4日
○第17回大耿会書作展	あわぎんホール	5月21日～	23日
○第37回双暢会書展	県立文学書道館	6月18日～	20日
○米寿記念新居藍州書作展	県立文学書道館	6月23日～	27日
○第4回幽の会書展	徳島市シビックセンター	7月16日～	18日
○第23回長玄書道会展	あわぎんホール	7月23日～	25日
○第24回教員展	四国大学交流プラザ	7月24日～	30日
○第40回直心会書展	あわぎんホール	9月3日～	5日
○第74回徳島書芸院展	あわぎんホール	9月9日～	12日
○第55回書協人展	あわぎんホール	9月10日～	12日
○第39回徳島雪心会書作展	あわぎんホール	9月18日～	20日
○第22回睦月会書展	徳島市シビックセンター	10月27日～	29日
○第3回春琴とその仲間たち展	徳島市シビックセンター	11月13日～	15日
○第9回一心会書展	あわぎんホール	11月14日～	16日
○第16回六書会書展	ヨンデンプラザ徳島	11月19日～	21日
○第6回吉野川市書人会展	吉野川市文化研修センター	12月3日～	5日
○第14回せせらぎ書展	徳島市シビックセンター	12月4日～	6日
○第15回尚真書展	あわぎんホール	12月10日～	12日
○第31回臨池書展	徳島市シビックセンター	12月11日～	12日
○第33回泉心会書作展	阿波銀プラザ	12月23日～	26日

会員消息

(県展・放美展・社中展は除く)

役員で出品した人・入賞者(平成22年1月から12月) 順不同

○第51回太玄会書展(東京都美術館 1/11～17)

第46回太玄会役員書展(東京セントラル美術館 5/11～16)

運 営 委 員 春藤大耿

理事・実行委員 近藤静苑・田村昇鶴・中尾勝子・富久鳴泉

理事 鈴木恵理・田上洋香・弘田長風・稲井華風・南 溪石・岡島順子
大槩一峰・下村清子・中西甫子

審査会員 馬居汀香・春藤玉秀・弘田長風・春藤真紀・木村弘子・瀬藤豊子
廣島白鷺・吉田美恵子

太 玄 賞 南 溪石

特 別 賞 田上洋香

会員新人賞 春藤真紀・妹尾敏子

準 推 選 山下栄祥

特 選 福井珠光

準 特 選 新見耿邨・松本観翠

○第41回正筆会青華書作展（東京銀座画廊美術館 1／22～24）

常任総務理事 亀石文苑

総 務 理 事 竹田和代

○第64回日本書芸院展（大阪市立美術館 2／16～21、6／29～7／7）

（大阪国際会議場 4／13～25）

常 務 理 事 勝瀬景流

参 与 東 南光・薄田玲泉

一科審査会員 清水桂月・高田青蓮・矢部知子・沖田唐谷・能仁華瑤・東 弥生
河野真流・森 光翔・宮守崇流・向井京子

二科審査会員 谷口清水・松永翠月・横田典子・宇山耿鶴・谷 弘美・鳩成青嶂
藤村柳葉・藤山真由里・川村春琴・井上虹雨・赤川景舟・山本景琴
加村喜美子・長谷美峰・竹田和代

史 邑 賞 亀石文苑

大 賞 青木東玄・八木藍玉・上田輝芳・倉本景雨・辻 紅雲

特 別 賞 竹内虹舟・遠藤恵泉・吉田靖流

準 特 別 賞 谷 玲琴・佐川菁流・背川景玲・皆谷芳穂

特 選 北村浩子・丸岡泉石・吉村敬子・後藤紀代・日下真宏・恵美春陽
佐野陽子・河野多美・丸岡春暁・井上智世・折野佳子・中筋良江

一科会員推薦賞 安友彰子・南本智子

二科会員推薦賞 上田美智・林 美雪・多賀春光・満寿川愛弓

○第46回創玄展（国立新美術館 3／4～14）

一科審査員 荒井彭仙・長原皋聖・玉城乾香・浜 佳香

二科審査員 永松春苑・多田清芳・芝原醒鶴

審査会員 岩本志豪・大島溪石・吉田和婉・丸岡香貞・大西清葩・朝三皋如
平岡幽琴・山口幽径

秀逸 高瀬大峰・川端康清・大井皐霄・木内皐蓉・松岡皐玉・武田玲香
岸 緑香・佐藤恵和・丸田恵風

○第38回日本の書展（大阪国際会議場 5／27～30）

現代書壇代表 勝瀬景流

招待 東南光・伊丹東龍・春藤大耿・亀石文苑・薄田玲泉・荒井彭仙
玉城乾香

秀抜選 清水桂月・武市鳴雲・能仁華瑤・川村春琴・浜 佳香・多田清芳
大西清葩

○第33回日本かな書展（東京日本橋高島屋 5／27～6／1）

副理事長 藤若美風

審査会員 松本清香・三浦富美代

正会員 長谷美峰

○第34回由源会全国書展（マイドーム大阪 5／29～31）

常任無鑑査 川村春琴

委員 丸岡春暁・谷 玲琴

幹事 中村春岳

池田市教育委員会賞 土井和翔

豊中市議会議長賞 満寿川愛弓

○第27回日本詩文書協会展（東京セントラル美術館 6／8～13）

評議員 荒井彭仙・玉城乾香

○第62回朝陽書道会展（岡山県天神山文化プラザ 6／15～20）

理事長 勝瀬景流

常任総務 薄田玲泉

常任理事 赤川景舟・井上虹雨・上田輝芳・河野真流・倉本景雨・佐川菁流
竹内虹舟・宮守崇流・森 光翔・山本景琴

○第48回水穂会書展（京都市立美術館 6／25～27）

総務 東 弥生

常任理事 宇山泰鳳・向井京子

○第24回玄心書道展（兵庫県立美術館・原田の森ギャラリー 7／1～4）

常任理事 辻 紅雲

○第62回毎日書道展（国立新美術館 7／7～19）

(愛媛県立美術館 8 / 11～15)

審査会員 荒井彭仙・玉城乾香

会 員 長原皋聖・芝原醒鶴・永松春苑・浜 佳香・多田清芳・岩本志豪
吉田和婉・平岡幽琴

秀 作 長原皋月・遠藤玻都恵

佳 作 高瀬大峰・玉城乾舞・仁木志香

○第27回読売書法展 (国立新美術館 8 / 20～29)

(高松市美術館 12 / 9～12)

常任理事 勝瀬景流

理 事 清水桂月・能仁華瑤・東 南光・東 弥生・薄田玲泉・河野真流
上田輝芳・亀石文苑

幹 事 高田青蓮・林 美雪・川村春琴・倉本景雨・竹内虹舟・宮守崇流
佐川菁流・井上虹雨・山本景琴・森 光翔・辻 紅雲・長谷美峰
宇山泰鳳・向井京子・竹田和代

評 議 員 松永翠月・河野多美・駒田水洸・遠藤玉流・背川景玲・皆谷芳穂
井上景玄・吉田靖流・加村喜美子・内田麻紀・阿部博子

会 友 八木藍玉・吉岡美雲・西岡花春・関根史子

読売俊英賞 井上虹雨・山本景琴

奨 励 賞 井上景玄

特 選 佐野陽子・松本景芳・井上小百合

秀 逸 青木東玄・岡部比登美・石井祥光・河野美鶴

○第9回国際書法交流 奈良大展 (奈良文化会館 10 / 4～19)

審査会員 玉城乾香

○第24回寒玉書法展 (東京高島屋10 / 23～25)

常任総務 長谷美峰

○第42回日展 (国立新美術館 10 / 29～12 / 5)

会 員 勝瀬景流

入 選 東 南光・伊丹東龍・川村春琴・清水桂月・能仁華瑤・井上虹雨
薄田玲泉・竹田和代・宮守崇流・山本景琴・玉城乾香・射場少藍
託問勝陽・福永美泉・米澤東龍・向井恵理

○第36回創玄現代書展 (東京セントラル美術館 11 / 2～7)

一科審査会員 長原皋聖・玉城乾香

選 抜 入 選 武田玲香・野田満代

○第50回璞社書展（大阪市立美術館 11／30～12／5）

参 事 春藤大耿

参 与 清水桂月・谷口清水・豊浦春光・松本深翠・馬渕直枝・春藤玉秀

相談総務 東 南光

常任理事 武市鳴雲・能仁華瑤・駒田水洗・馬居汀香

理 事 岡島朱伯・野口有香・花本清香・松浦翠篁・松永翠月・南 溪石
森本真由美・横田典子・河野多美・林 美雪・八木藍玉・田上洋香
鈴木恵理・弘田長風

評 議 員 上田美智・北村浩子・園尾恵風・谷本真由美・長尾愛香・前川林谷
丸岡泉石・大本華越・片山芳明・春藤真紀・中西瑤汀・石井祥洸
伊藤景風・河野美鶴

特 別 賞 笠井仁美・佐野陽子・稲井華風

優 秀 賞 恵美春陽・岡部比登美・山下栄祥

璞社会長賞 伊達静蘭

璞社役員賞 高柳早秀

特 選 井上加芳・磯川味佳・高橋信華・山崎真美

佳 作 久米香風・大塚秀峰

奨 励 賞 乾 桂泉・三好恵子・柏尾美峰・林 玲光・山口彰良・山口千恵子

○第26回国際蘭亭筆会書法展（沖縄県宮古島総合体育館 12／8～12）

日本部理事長 東 南光

○第62回正筆書展（兵庫県立美術館・原田の森ギャラリー 12／11～12）

常任総務理事 亀石文苑

総務理事 竹田和代

常任理事 加村喜美子・内田麻紀・齋藤弥生・阿部博子

理 事 寺尾俊通・井上小百合・古谷和代・折野佳子・松本トキ子

○第32回日本書道学院展（東京都立産業貿易センター 12／17～19）

客 員 勝瀬景流

審 査 員 薄田玲泉・河野真流・赤川景舟・井上虹雨・上田輝芳・倉本景雨
佐川菁流・竹内虹舟・宮守崇流・森 光翔・山本景琴・背川景玲
井上景玄

デザイン部

部会長 福井 章

年間展望

◎第18回放美展（5月2日(日)～5月6日(木) あわぎんホール）

応募点数91（出品人数84）。審査は美協デザイン部、坂野美恵子、沢口功、北島豊嗣が担当し、43点（入選率47.3%）を入選とした。その中から、現代的なメッセージ性が評価されて、放美賞に「ECOしてる？」の麻植久視子が、優秀賞には籠家弘高「サイゴノ・ハイスイ・チュウカン・チテン」と、小林あい「good night」鈴木智子「くちばしさん空想旅行スイスに来たよ」が選ばれた。いずれもレベルは高く基礎的画力がしっかりしている作品と評された。17回展より出品人数（+20）も応募点数（+24）も大幅に増え、その分審査も厳しく、良い作品が展示された。放美展が若いデザイナーの登竜門として認知されている現れといえるだろう。審査員の坂野、沢口、北島と美協理事、坂本三千一、運営委員の田中一郎が出品し、併せて48点が展示された。

◎第65回徳島県美術展（第1期10月9日(土)～17日(日) あわぎんホール）

審査員にJAGDA（日本グラフィックデザイナー協会）会長、勝井三雄氏を招いた。「ポスターは30秒で解るものでなければならない」の言葉から始まった審査は2時間弱であったが、審査員の集中力はさすがに見る者を圧倒するものがあつた。残念ながら出品者数（-12）も応募点数（-24）も前回に比して減少した。（減少の原因について検討の必要があると思われる）

応募点数54（出品人数41）。入選34点（入選率63.0%）から特選2（内特別賞1）、準特選3、奨励賞3が選出された。特選・徳島市長賞には「きづいて」政平菜々世の作品が、強いメッセージ性が優れた感性と素直な表現で素晴らしいと、選ばれた。また特選の中尾菜由の「孤独」は、色の与えるイメージをうまく利用した的確な表現が良いと評価された。準特選は新宅生子、四十宮隆志（部会員）、矢野愛恵が、奨励賞は藤本愛美、斎藤志津子（部会員）、東早紀が受賞した。その他部会員の斎藤剛（2点）、沢口功、四十宮隆志が入選した。

勝井三雄審査員からは「表現力や色彩豊かで、バラエティーに富み、レベルが高く良質の作品ばかりで好感がもてた」と評をいただいた。会場には特別出品の坂本三千一、福井章、招待作家の斎藤繁次、坂野美恵子、敷島のり子の5点を加えて39点が展示された。

審査後、勝井三雄氏を囲む会が開かれ、美協デザイン部会員、JAGDA徳島（地区代表幹事に敷島のり子が就任）と、一般の方も交えて、新町川を遊覧する船で交流を持ったことを付記しておきたい。

◎坂本三千一氏に地域文化功労者表彰

美協理事で前部会長の坂本三千一に、11月9日、文化庁の地域文化功労者として文部科学大臣表彰がなされた。永年に渡るデザイン活動に対しての表彰で、デザイン部会としても満腔の敬意を表したい。

会員消息

（県美術展・放美展関係は除く）2010.1～12

■坂本三千一

- 4月 JAGDA Japan ブルーポスター展
B1「藍いろいろ」（とくしま新町橋たもと公園）
- 5月 JAGDA in HOKKAIDO ポストカード展出品
- 11月 地域文化功労者表彰・文部科学大臣表彰（東京・文化庁）
- 12月 平成23年経済5団体「新年祝賀会参加者名簿」表紙デザイン
(徳島経営者協会)

■西林 良枝

- 4月 新町橋たもと公園 ジャパンプルーポスター展出品
- 6月 アパートプレシデント川内2 カラーディレクション

■沢口 功

- 1月 第38回徳島市芸術祭美術展：審査員出品（あわぎんホール）
- 12月 第39回歳末チャリティ作品・色紙即売展
(徳島新聞社会文化事業団・そごう徳島店)

■福井 章

- 2月 2010 徳島フレッシュデザイナーズアワード審査（徳島新聞社）
- 4月 福井章水彩画展（ギャラリー喫茶グレイス）
- 12月 第39回歳末チャリティ作品・色紙即売展
(徳島新聞社会文化事業団・そごう徳島店)
- ・徳島新聞朝刊「阿波路イラストぶらり旅」絵と小文（毎月1回連載）
- ・徳島調停協会連合会会報「和と情理」イラストシリーズ（年2回連載）

■四十宮隆志

- 4 月 「阿波藍ジャパンプルー野外ポスター展」(東船場ボードウォーク)
・グラフィックデザイン(ポスター) 1 点出品
- 8 月 「イメージ・フォト・クラブ展どきん3」(阿波銀プラザ)
・グラフィックデザイン 4 点(展示時に繋げて 1 点) 出品
- 12 月 「平和のメッセージ×ジャパニーズアートポスター展」
(ニューヨーク、オープンハウスギャラリー)
・グラフィックデザイン(ポスター) 1 点出品
・オープニングレセプション参加
- 12 月 第39回歳末チャリティ作品・色紙即売展
(徳島新聞社会文化事業団・そごう徳島店)
・グラフィックデザイン(額入りポストカード) 大小 4 点出品

■吉本 実

- 1 月 第38回徳島市芸術祭美術展 デザイン部門特別出品(あわぎんホール)
- 3 月 徳島県観光戦略事業
・2010年版「徳島産直市観光マップ」
アートディレクション・イラスト・デザイン制作(徳島県観光戦略局)
- 4 月 はなはるフェスタ
・テーマ「阿波・藍」野外ポスター展
B 1 ポスター出品(ポスターギャラリー実行委員会)
- 6 月 徳島花へんろ事業
・2011年版「徳島花のある風景フォトコンテスト」ポスター、パンフレット、アートディレクション・デザイン制作(徳島県観光協会)
- 10 月 徳島県花基金事業
・「キャラクター」アートディレクション・デザイン制作
・2011年版「徳島花へんろポスターカレンダー」アートディレクション・デザイン制作(徳島県観光協会)
- 12 月 第39回歳末チャリティ作品・色紙即売展
(徳島新聞社会文化事業団・そごう徳島店)

■坂野美恵子

- 3 月 平成22年度春季二科展：会員出品(東京都美術館)
- 8 月 ジャパンプルー野外ポスター展作品出品(徳島市)

9月 第95回記念展二科展デザイン部門（国立新美術館）

■敷島のり子

3月 日本グラフィックデザイナー協会徳島地区代表幹事

4月 「阿波藍ジャパンプルー野外ポスター展」企画開催／出品

12月 第39回歳末チャリティ作品・色紙即売展

（徳島新聞社会文化事業団・そごう徳島店）

■斎藤 繁次

2月 ドクターエンドー個展

4月 文学書道館刊行 絵本「月をぬすんだ子供」 さし絵制作

■斎藤志津子

4月 文学書道館刊行 童話「爪先の落書」 表紙絵制作

5月 第65回徳島県美術展 ポスター制作

第65回 県展 審査 評

〔日本画〕

審査員 岡 村 倫 行
(日展評議員)

全体的にレベルが高い作品が並んだ。何をどう表現したいかが伝わり、安定感がある作品を中心に選んだ。徳島新聞社長賞の宮越千佳「響」は、生き物と命の共鳴的なテーマを描き、生命感をうまく表現した。ばらけた大輪の花びらや、球体に描かれた線の動きが、鳥とうまく響き合っている。上部のしま模様も生き生きとしてリズム感がよい。鳥の胸の部分を花で隠したことにより、鼓動が強調される効果が生まれた。また下半分の抑えた色彩が、上半分の生命感をより際立たせた。さまざまな形の構成も素晴らしかった。

特選の泉福美「流し台」は、日々の生活の部分をモチーフに選んだ視点がよかった。何でもない場所を、画面の構成や色の厚みを生かしてうまく表現した。古ぼけた流し台も、かつては新しく美しく輝いていたに違いない。それが何十年という歳月の中で、暮らしと同化した。絵の中に人の歩んできた道や年月の重みを感じられ、感動を呼ぶ。

特選以外でも、犬への愛情がストレートに表れた作品が目をつけた。ふわっとした毛並みや柔らかそうな体の質感をしなやかに描いていた。

最近では、写真をもとに絵を描く人もいるが、私はできるだけ写生をしてほしいと願う。写生のときに抱いた感覚は、とても大事だ。風景を一本の線で引いただけで、テーマやモチーフが決まることもある。

五感を最大限に生かして、それを具現化する努力を惜しまないでほしい。すごく難しいことだが、画家が制作過程で悩み苦しめばその分だけ、絵を見る人を元気づけることができる。そう信じて表現し続けてほしい。

〔洋 画〕

審査員 金 山 桂 子
(日展評議員)

全体的に一定以上のレベルで力が拮抗した作品が多く、まじめに熱心に絵に向かっている

ることが感じられた。抽象作品や静物、風景などバラエティーに富んでいた。審査においては、一人一人の個性に注目し、その人らしい色使いや構図が出せているか、独自のものを表現しようとしているかを重視した。

四国放送社長賞の林静代「時空への誘いⅠ」は、具象のモチーフを借りて、内面的なイメージを表現した幻想的な作品で、確かな画力と色使いがさえている。背景の青は、元来冷たい色だが温かみを感じさせる。中央の大輪の花に向かって小さな人影がいくつも舞う姿に、「飛びたい」という願望を込めたのだろうか。茎のように伸びた赤いらせん階段が効果的。夢のある作品に仕上がっている。

特選の森本仁美「夏の日（青い自転車）」は、何気ない風景ながら、風を感じる魅力的な作品に仕上がっている。遠近を巧みに描いた構図が素晴らしい。子どもが自転車に乗る姿を温かく表現した。緑色を美しく使うことで、土と草の色の調和がとれ、絵に柔らかさが出ている。

特選の加賀谷愛美「時空・過去より」は、カラフルな球体を立体的に描いた抽象作品。球体を画面上半分に集め、絵の重心を上部にすることで、球が浮かんでいるかのような空間の広がり表現し、作品を際立たせている。立体と平面を織り交ぜた構図は、宇宙を想起させる。

丁寧で熱のこもった作品の数々から、年に一度の展覧会を励みにしていることが伝わってきた。何を描きたいかを大切に、デッサン、描写力、表現力などをつけて、どうすれば魅力的に仕上がるか、考えていくとより良い作品になるだろう。

[写 真]

審査員 三 好 和 義
(写真家)

どの作品が入選してもおかしくないほど粒ぞろいだった。全体として、被写体は風景より人物の方がいい作品が多かった。ポーズもいいのがたくさん見られた。人物写真は、その人の表情をうまく引き出せるかがカメラマンの力量。被写体が笑っているだけでなく、写真を見る人の心をどう動かすかだ。

単にきれいだというだけでなく、ストーリー性があるか、自然な表情をとらえているかを選考基準にした。「こんな写真を撮りたい」「見たことがない写真」と思わせるものや、徳島らしい作品かどうかポイントにした。

県美術家協会会長賞の喜多昌弘の組写真「お遍路」は、表情が自然で生き生きとしている。重厚で暗いお遍路の写真が多い中、表情がにこにこ明るいところがよかった。力が入り過ぎず、見る人がほっとする。雨に濡れながらも撮る真剣さも伝わってくる。

特選の郡訓子「少年剣士」は、低いアングルから、若い2人が微笑み合ういい表情をとらえている。青春ドラマの一コマみたいなシチュエーション。少年がカメラを前に緊張している感じも分かった。

大和章人「夜更けの街」は、暗い中で撮った阿波踊りの写真。踊り子だけなら何の変哲もないが、左側に黒いドレスを着た今風の女性がいる面白さがある。いい雰囲気、踊りの後の余韻を残している。

富岡佳代子の組写真「田植えの頃」は、棚田の風景。棚田を写した作品は幾つかあったが、2人を軸にストーリーにしたのがいい。表情をうまく引き出している。引き続き収穫のときに撮るのも面白い。

組写真は1（枚）プラス1を2以上にしなければいけない。どうやって組み立てるかを考えれば、もっとよくなる。身近なところで、楽しみながら写真を撮る気持ちが大切だ。

[彫 刻]

審査員 建 畠 朔 弥
(日本大学芸術学部教授)

「今」「現在」を、どれだけ強く打ち出しているかをポイントにした。表現は否定でも、賛美でも構わない。われわれが好むと好まざるとにかかわらず共有せざるを得ない「今」を感じさせる作品を、感覚的に選び取った。

県知事賞の木村大志「午前4時のダイブ」は、とまり木から飛び降りようとする瞬間のニワトリを生き生きと表現した作品。木の風台いが生きている。一言で言えば、おしゃれで、タイトルもしゃれている。造形的な部分と全体の処理がうまくいった見事な作品だ。

準特選の武田亜希子「未来船」は、欵を素材としたオーソドックスな作品ではあるが、空間構造がしっかりと把握できている。

準特選の西村大喜「inochi」は、石の有機的な質感をうまく生かし、量感とフォルムのバランスがよくとれている。

準特選2作は、欲を言えば、もう少し冒険がほしいところ。

今回、実にさまざまな作品が出品されており、楽しませてもらった。入選作品のレベル

は高く、指導者の充実ぶりがうかがえた。

ただ、人体に関して言えば、「現代」の人間を表現する上で、もっと別の可能性があるのではないか。また、徳島だけではなく、全国的に見て彫刻界に元気がない。既成概念にとらわれず、一歩踏み込んだ表現を追求する勇気がほしい。

[美術工芸]

審査員 山下 了 是
(東京芸術大学美術学部教授)

生き生きとして、作る喜びを感じる力作が多かった。入賞には至らなかったが、賞に選
びたくなる作品も幾つかあった。

粋のよさや新鮮さにあふれ、見る人が元気になるような作品を選んだ。また、素材のよ
さや、技法によって自分の感覚を十分に生かしているかも審査基準とした。

県議会議長賞の矢野藍游「つばめ」(染色)は、布という素材の魅力と、藍染というす
すがしさがガストレートに感じられた。伸び伸びとしていて非常に気持ちがいい。色は藍、
模様はツバメ、古い技法で柄も目新しくはない。しかし、藍染の絞りの要素と布の素材が
単純に生きている。柄と素材が合っていれば、見る人に感動を与えることができる。

特選の石井春夫「乱舞」(陶器)は、茶を基調にした落ち着いた色合いの花器。白を織
り交ぜることで明るさも持たせている。形とたたずまいがとても堂々としている。柄はシ
ダ類のような植物だろうか。生命力にあふれ、見る人を元気にさせ、訴えるものがある。

手先の仕事ではなく、素材と技法のよさを生かすのが工芸。素材と技法の魅力をどこま
で伸ばし、自分のものとして打ち出せるか。素材によっては、すぐに出来上がってしまい、
作品がクラシック風に流れている人もいる。その中でも、独自のものを少しでも出してほ
しい。

要らないものは作品の中から捨てる考えが必要。大中小を何もかも詰め込むのではなく、
思い切って大きなものと、うんと小さいものだけにすれば、その間は見入る人が想像してく
れる。技術的に上手にきれいに作ろうという気持ちではなく、堂々としていればいい。既
成概念にとらわれず、ものを作ってほしい。

[書 道]

●漢字・篆刻

審査員 大河内 仙 嶽
(日展会員)

初めて徳島県美術展の審査をしたが、全国と比べてもレベルの高い作品が多かった。熱心な指導者がいて、しっかりした指南ができている証拠だ。いかに伸び伸びと書けているか、全体のバランスなどに配慮して特選の4作品を選んだ。

米澤司子「李太白詩」は、大きな流れの中で、筆を自在に操って見事な作品に仕上がった。線も堂々として大きく、縦の筆の流れを蕩々と表現した。文字の大小、濃淡、潤渇など、書の遊びが巧みで、全体的によく調和している。

佐野陽子「朱國祚詩」は、とても完成度が高い作品。バランスがよく、全体的な統一感がとても美しい。行間も非常にきれいで、そつのない手慣れた作品だ。真ん中のかすれ感なども効果的で、熟練度の高さがうかがえる。

林みゆき「陸游詩」は、線質の多彩さが魅力的な作品。縦の流れを重視し、文字と文字の間にも余白をつくって変化を付け、明暗をうまく表現した。リズム感もよく、さすがの腕前だと感じた。上位4作に選ばれてしかりの実力だ。

佐々京子「高啓詩」は、直線を生かした力強さが印象的だった。行間や余白にはこだわらず、大胆に荒々しく表現し、文字を全体の集団で見せる造形に成功している。一字一字には幼さもあるが、前途を期待させる迫力があつた。

篆刻は高校生ら若者の出品が多かった。上達するには、まず篆書をしっかりと勉強することだ。それが書けるようになると、配字がうまくできるようになる。赤と白が織り成す世界をこれからも楽しんでほしい。

徳島県は、先人に書の小坂奇石を生み出すなど、書の豊かな風土があり、環境的には非常に恵まれている。これを生かして、どう自己表現していくか追求してほしい。

●仮 名

審査員 師 田 久 子
(日展会員)

字の大小や墨の量にうまく変化をつけた個性豊かな作品が多く、全国と比べて高水準だった。その中で、展開に山と谷があり、美しい景色を見ているような印象の作品を選ぶよう心掛けた。

特選の井上まり「清水へ（与謝野晶子の和歌）」は、仮名を書くには強い色である濃い緑の紙に、思い切って墨を乗せている。墨をあまり吸わない紙質を選び、字を浮かび上がらせて背景に負けないようにした点がとてもよかった。

漢字と仮名のバランスがよく、字と字の間隔や行間をうまく取っている。前述したように、まるできれいな景色を見ているような、あるいはリズムのいい音楽を聴いているような作品だ。

特選の阿部博子「ひさかたの（良寛の和歌）」は、細身の線を基調とし、一気に筆を走らせてスピード感のある作品に仕立てた。全体を3つに分け、それぞれが独立しているように、それでいてつながっているようにまとめ、一つの世界をつくり出している。

行間を均一にしないようにうまく取りながら、仮名の作品にとって大切な余白の美しさを出している点も評価したい。

全体的に、結社の師風から離れ、自分の色を出そうとしている作品が目立ったのはよい傾向だ。個性を大切に、長所を伸ばしてほしい。一部だが、字に合っていない紙や筆を用いていると感じられる作品もあったので、字を生かす用具についても研究してもらいたい。

●近代詩文 前衛

審査員 飯 高 和 子
(書道芸術院理事)

近代詩文の審査では、文字の造形を大切にしながら、それでいて詩の世界がしっかりと確立されているものを選んだ。

県教育長賞の平岡郁子「工藤直子の詩」は、文字の鍛錬度が高く、平仮名だけでしっかりとした作品に仕上がっている。また淡墨によって平仮名の優しさがうまく引き出され、詩のイメージに温かみと広がりを持たせている。

特選の佐藤恵子「竹内勝太郎の詩」は、文字に抑揚があり、線が深い。筆脈から、書き手の集中力が伝わってくるようだ。墨と余白の対極も美しく、見る者に訴えかけるものがある。

近代詩文は、自作の素材を用いることができるなど、より端的に自分の思いを表現できる分野。漢字や平仮名、さらには片仮名やローマ字など、自分が今使っている文字をうまく造形し、自分にしかできない表現に挑戦してほしい。

前衛は、漢字の構成がよく練られているものが多かった。ただ落款の大きさや、押す場所にもっと工夫がほしかった。前衛の作品における朱の重みを意識してほしい。また紙の

材質や墨色にも、独創性やこだわりが必要だ。高校生の出品も多い分野のようなので、若い感性を生かした大胆な作品を期待したい。

準特選の中川博雅「召」は、文字性のあるものを昇華している。縦や横、斜めの線いずれも、筆と墨の特性を生かしながら格調高い世界に仕上げた。

徳島は、県立の文学書道館があるなど文字文化を大切にしているという印象がある。今後はそういった徳島の県民性や文化を生かした地域性豊かな作品を望みたい。

[デザイン]

審査員 勝 井 三 雄
(日本グラフィックデザイナー協会会長)

表現力や色彩が豊かで、センスを感じさせる作品が多く、バラエティーに富んでいた。高校生の出品が多いのは全国的な傾向だが、特にレベルが高く、良質の作品ばかりで好感が持てた。表現力を見せたいイラスト傾向の作品と、環境や社会問題について提言するメッセージ性の強い作品がほぼ同じ割合で出品されていた。未来の才能を育てたいという気持ちから、描き手の個性やメッセージがはっきりと伝わってくるものを選んだ。

徳島市長賞の政平菜々世「きづいて」は、緑色のシマウマのシマ模様を使って地球を描いた、強いメッセージを感じさせる作品。太平洋を土色で表現し、涙をこぼすシマウマの表情から環境問題への作者の思いが伝わってくる。背景の薄い紫色は、緑色と補色の関係にあり、作品のインパクトを生み出す。優れた感性と素直な表現が素晴らしい。

特選の中尾茉由「孤独」は、今どきの高校生のナイーブな心情を的確に表現した。9つのビンの中に、制服を着た女の子を一人ずつ閉じ込めて、それぞれポーズと色を変えて孤独を表現している。色の与えるイメージをうまく利用しており、配色も良い。

今回の出品作では、文字を含まない、ビジュアルコミュニケーションの作品が目をつけた。作品そのものにメッセージ性の強い作品が多かったものの、文字もその表現を後押しする力を持つ。的確なタイトルを付けることによって、作品に込めた思いが見る人にスムーズに伝わる。個性豊かな作品にマッチしたタイトルを付けることも心に留めてほしい。

平成22年度 第65回徳島県美術展（県展）公募規定

部門 区分	日本画	洋 画	写 真	彫 刻
搬入日	9月26日	9月25日	10月3日	9月26日
搬入先	あわぎんホール（県郷土文化会館）3F展示場			
審査日	9月26日	9月26日	10月3日	9月26日
審査員	岡村 倫行	金山 桂子	三好 和義	建畠 朔弥
出品料	協会員 1点目 3,500円 その他の方 4,500円 2点目からはすべて 1,500円			
出品制限・大きさ・仕上げ	・未公開作品に限る ・点数は制限なし ・小・中学校在学者は出品できない ・70.0cm×47.0cm（額縁を除いて）以上でタテ、ヨコ190cm（額縁を含む）以内（ガラス・アクリル不可） ・吊り紐	- 同 左 ・20号から60号まで（水彩は20号以上、版画は10号以上、S型は30号までとする） ・額 ・吊り紐	- 同 左 ・組・単とも半切及びA3から全倍サイズで画面の長辺が40cm以上80cm ・スクエアサイズ（正方形）は一片が30cm以上50cm ・パネル張りに限る ・無鑑査以上は上記サイズの単写真に限る	- 同 左 ・高さ2m×幅1.5m×奥行1.5m重量200kg以内 ・材料は自由、展示可能なものに限る
入賞	特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数	特選 3点 準特選 6点 奨励賞 5点 入選 規定数	特選 4点 準特選 9点 奨励賞 8点 入選 規定数	特選 1点 準特選 2点 奨励賞 2点 入選 規定数

部門 区分	美術工芸	書 道	デザイン
搬入日	9月26日	10月1日	10月3日
搬入先	あわぎんホール（県郷土文化会館）3F展示場		
審査日	9月26日	10月2日	10月3日
審査員	山下 了是	大河内仙嶽、師田 久子、飯高 和子	勝井 三雄
出品料	協会員 1点目 3,500円 その他の方 4,500円 2点目からはすべて 1,500円		
出品制限・大きさ・仕上げ	・未公開作品に限る ・点数は制限なし ・小・中学校在学者は出品できない ・大きさ制限なし（ただし、平面作品はタテ1.8×ヨコ1.5m以内） ・木・竹・金工・陶磁・漆・染色・織物・人形・ガラス等 展示できる用具をつける	- 同 左 ・半切又は全紙横$\frac{1}{2}$以上、仕上がり面積が1.47㎡（16平方尺）以内、縦・横自由 ・卷子本・帖（40×300cm以内） ・篆刻は印影（タテ39cm×ヨコ30cm以内）で額装に限る （例）61cm（2尺）×242cm（8尺）枠張 79cm（2.6尺）×181cm（6尺）枠張 91cm（3尺）×161cm（5.3尺）枠張 121cm（4尺）×121cm（4尺）枠張 ・半切・全紙$\frac{1}{2}$・聯落まで額装 アクリル入りでもよい ・無鑑査以上は半切以内 ・部門は漢字（篆刻）・仮名・近代詩文・前衛とする	- 同 左 ・B1パネル（横728×縦1,030ミリ）厚さ5～75ミリ程度 重さ5kg以内 ・課題は自由（実在の商品名・会社名等は除く） ・法的規制に触れないこと ・吊り紐
入賞	特選 2点 準特選 4点 奨励賞 3点 入選 規定数	特選 8点 準特選 14点 奨励賞 13点 入選 規定数	特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数

（注）・落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること

- ・展示作品は第一期は10月17日（日）、第二期は10月27日（水）の午後5時から午後6時までに搬出すること
- ・所定の期日までに搬出しない場合は主催者において処分する

第 65 回 県 美 術 展

特別・招待・無鑑査・賛助出品者名

☆ 日 本 画

(特別出品)	長 尾 弘 子	西 野 和 男	
(招 待)	中 川 健	岡 英 彦	土 方 るみ子
	土 井 洋 子	中 西 芳 雄	日 浦 猛 史
(賛助出品)	長 谷 壽		

☆ 洋 画

(特別出品)	佐 野 比呂志	梶 田 務	
(招 待)	清 水 亟 悞	楠 瀬 等	露 口 敏 幸
	長 尾 弘 久		
(賛助出品)	岡 多美子	河 田 安 市	黒 崎 志 郎
	松 川 寛	中 辻 奈美枝	

☆ 写 真

(特別出品)	三 好 和 義	西 條 征 二	櫛 渕 魏
(招 待)	井 上 光 雄	木 田 英 之	勝 西 雅 夫
	上 野 照 文	森 賢 一	橋 本 圭 祐
	前 浦 芳 久	荒 井 賢 治	林 敏 彦
	古 井 謙 吉	井 藤 光 章	増 田 寿
	柳 本 正	大 和 健 司	船 越 正 文
	堀 渕 完 治	久 保 英 樹	岩 崎 英 昭
(遺 作)	中 野 建 吉		

☆ 彫 刻

(特別出品)	河 崎 良 行	佐 藤 隆	
(招 待)	井 下 俊 作	鎌 田 邦 宏	松 永 勉
	居 上 真 人	上 月 佳 代	
(賛助出品)	長 岡 強		

☆ 美術工芸

(特別出品) 七 條 猪三郎
(招待) 多智花 佐代子
森 賢 一
(賛助出品) 中 川 存

松 下 雄 介
橘 恵
矢 野 款 一

松 下 慶 一
犬 伏 絢

☆ 書 道

(特別出品) 新 居 藍 州
(招待) 宮 井 青 雨
成 尾 莊 秀
前 川 古 舟
春 藤 大 耿
勝 瀬 景 流
日 下 溪 翠
山 口 華 城
中 尾 勝 子
島 田 小 園
隅 田 英 二
玉 城 乾 香
高 田 青 蓮
亀 石 文 苑
(無鑑査) 宮 守 崇 流
詫 間 勝 陽
(賛助出品) 東 南 光

荒 井 彭 仙
長 原 皋 聖
原 田 霄 月
清 水 桂 月
中 谷 史 子
川 上 虹 泉
岡 島 順 子
藤 若 美 風
富 久 鳴 泉
坂 本 霄 風
松 本 清 香
薄 田 玲 泉
三 浦 富美代
岩 本 志 豪
戸 出 芳 泉
東 野 秀 蕙

西 南 龍
芝 原 醒 鶴
美 馬 幾美賀
長 谷 美 峰
近 藤 静 苑
竹 田 和 代
武 市 鳴 雲
永 松 春 苑
浜 佳 香
多 田 清 芳
能 仁 華 瑤
宇 山 泰 鳳
林 桂 翠

☆ デザイン

(特別出品) 福 井 章
(招待) 斎 藤 繁 次

坂 本 三千一
坂 野 美恵子

敷 島 のり子

あ と が き

恒例の第18回放美展が5月2日(日)から6日(木)まで、第65回県美術展が第1期が10月2日(土)から17日(日)まで、第2期が10月19日(火)から27日(水)まであわぎんホール（県郷土文化会館）で開催されました。昨年あたりから観覧者数などにおいて減少傾向にあると申し上げましたが、会員数も減少傾向にあり高齢化による各部の事情によるものかと思われます。

各部部长から、一年間の各部の動向や会員の消息をいただきましたが、会員の意識向上に役立てていただければと考えます。会員の方で掲載したい情報は、年報の発行される前に各部部长とご相談くださるようお願いいたします。

今年の表紙は美術工芸部の担当ということで松下慶一さんからいただきました。

会員の皆様には健康に留意されまして、ますます創作活動に励まれ、二大行事（放美展・県展）にご参加下さいますことを祈念いたします。

平成 23 年 3 月

県美術家協会事務局

美 術 年 報 2011年

平成23年 3 月30日 印刷

平成23年 3 月31日 発行

編集者 清 水 博
装幀者 松 下 慶 一
発行人 佐 野 比呂志
印刷所 原田印刷出版株式会社
発行所 徳 島 県 美 術 家 協 会
(徳島市名東町1丁目246 清水方)
